

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄							備考	
計画の区分	研究科等連係課程実施基本組織（研究科の設置）								
フリガナ設置者	コリツカクイフクシヤク シズカクイフク 国立大学法人 静岡大学								
フリガナ大学の名称	シズカクイフクイフク 静岡大学大学院 (Shizuoka University Graduate Schools)								
大学本部の位置	静岡県静岡市駿河区大谷836								
大学の目的	静岡大学大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて、文化の進展に寄与することを目的とする。								
新設学部等の目的	本研究は、自然科学を中心に経済・社会も視野に入れた幅広い分野にわたる教育を行うことにより、自然科学に対する専門知識だけでなく、合意形成能力、経済・社会に対する視野を併せ持ち、山岳流域における自然生態系の喪失や、災害の多発、中山間地の過疎化と産業衰退などの流域が有する課題を解決できる人材の養成を目的とする								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	研究科等連係課程実施基本組織 山岳流域研究院 【Interfaculty Graduate School of Mountain Watershed】	2年	7人	0年次人	14人	修士（流域学） 【Master of Watershed Science】	令和5年4月 第1年次	静岡市駿河区大谷836	研究科等連係課程実施基本組織等 学位の分野： 農学関係
	連係協力研究科（Ⅰ） 人文社会学研究科 【Graduate School of Humanities and Social Sciences】							静岡市駿河区大谷836	
	臨床人間科学専攻（M） 【Department of Clinical Human Sciences】	2	11	0	22	修士（臨床人間科学） 【Master of Clinical Human Sciences】	平成15年4月 第1年次		学位の分野： 社会学・社会福祉学関係
	比較地域文化専攻（M） 【Department of Comparative Studies in Languages and Culture】	2	10	0	20	修士（文学） 【Master of Arts】	平成9年4月 第1年次		学位の分野： 文学関係
	経済専攻（M） 【Department of Economics】	2	15	0	30	修士（経済学） 【Master of Economics】	平成17年4月 第1年次		学位の分野： 経済学関係
	経済専攻から山岳流域研究院の内数とする入学定員数		1	0	2				
	連係協力研究科（Ⅱ） 総合科学技術研究科 【Graduate School of Integrated Science and Technology】							静岡市駿河区大谷836 浜松市中区城北3丁目5番1号	
	情報学専攻（M） 【Department of Informatics】	2	60	0	120	修士（情報学） 【Master of Informatics】	平成27年4月 第1年次		学位の分野： 工学関係、社会学・社会福祉学関係
	理学専攻（M） 【Department of Science】	2	70	0	140	修士（理学） 【Master of Science】	平成27年4月 第1年次		学位の分野： 理学関係
理学専攻から山岳流域研究院の内数とする入学定員数		1	0	2					

新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地		
	工学専攻 (M) 【Department of Engineering】	2	322	0	644	修士 (工学) 【Master of engineering】	平成27年4月 第1年次		学位の分野： 工学関係	
農学専攻 (M) 【Department of Agriculture】	2	87	0	174	修士 (農学) 【Master of Agriculture】	平成27年4月 第1年次		学位の分野： 農学関係		
農学専攻から山岳流域研究院の内数とする入学定員数	5		0	10						
計	—	—	—	—						
同一設置者内における変更状況 (定員の移行, 名称の変更等)	グローバル共創科学部グローバル共創科学科 (115) (令和4年3月認可申請) 人文社会科学部 社会学科 [定員減] (△10) (令和5年4月) 言語文化学科 [定員減] (△6) (令和5年4月) 法学科 [定員減] (△6) (令和5年4月) 経済学科 [定員減] (△13) (令和5年4月) 教育学部 学校教育教員養成課程 [定員減] (△40) (令和5年4月) 情報学部 情報科学科 [定員減] (△2) (令和5年4月) 行動情報学科 [定員減] (△1) (令和5年4月) 情報社会学科 [定員減] (△7) (令和5年4月) 理学部 化学科 [定員減] (△4) (令和5年4月) 生物科学科 [定員減] (△4) (令和5年4月) 地球科学科 [定員減] (△2) (令和5年4月) 工学部 機械工学科 [定員減] (△8) (令和5年4月) 化学バイオ工学科 [定員減] (△2) (令和5年4月) 農学部 生物資源科学科 [定員減] (△10) (令和5年4月)									
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数				
	山岳流域研究院	講義	演習	実験・実習	計	30 単位				
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等		(注) <>内は、研究科等連係課程実施基本組織のみに従事する専任教員数 【】内は、研究科等連係課程実施基本組織と連係協力研究科等を兼ねる専任教員数
	新設	研究科等連係課程実施基本組織 山岳流域研究院	教授	准教授	講師	助教	計	助手		
既設	人文社会科学研究科	臨床人間科学専攻 (M)	12 (12)	3 (3)	2 (2)	0 (0)	17 (17)	0 (0)	8 (9)	
		比較地域文化専攻 (M)	16 (20)	8 (9)	1 (1)	0 (0)	25 (30)	0 (0)	3 (3)	
		経済専攻 (M)	13 (15)	8 (8)	0 (0)	0 (0)	21 (23)	0 (0)	1 (1)	
	教育学研究科	共同教科開発学専攻 (D)	13 (15)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	16 (18)	0 (0)	0 (0)	
		教育実践高度化専攻 (M)	38 (42)	33 (34)	12 (11)	1 (1)	84 (88)	0 (0)	13 (13)	
	総合科学技術研究科	情報学専攻 (M)	28 (31)	16 (18)	9 (9)	2 (2)	55 (60)	0 (0)	76 (82)	
		理学専攻 (M)	24 (28)	35 (35)	8 (8)	4 (4)	71 (75)	0 (0)	84 (90)	
		工学専攻 (M)	64 (74)	78 (80)	3 (3)	13 (13)	158 (170)	0 (0)	73 (83)	
		農学専攻 (M)	25 (29)	27 (28)	0 (0)	10 (10)	62 (67)	0 (0)	71 (79)	
新設	関係協力研究科 (I) 人文社会科学研究科	経済専攻 (M)	13 (15)	8 (8)	0 (0)	0 (0)	21 (23)	0 (0)	1 (1)	
新設	関係協力研究科 (II) 総合科学技術研究科	理学専攻 (M)	24 (28)	35 (35)	8 (8)	4 (4)	71 (75)	0 (0)	84 (90)	
		農学専攻 (M)	25 (29)	27 (28)	0 (0)	10 (10)	62 (67)	0 (0)	71 (79)	
計			62 (72)	70 (71)	8 (8)	14 (14)	154 (165)	0 (0)	— (—)	

教 員 組 織 の 概 要	既 設	光医工学研究科	光医工学共同専攻	10 (10)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	24 (26)	
		自然科学系教育部	ナノビジョン工学専攻	7 (9)	9 (9)	0 (0)	0 (0)	16 (18)	0 (0)	46 (49)	
			光・ナノ物質機能専攻	15 (16)	8 (8)	0 (0)	1 (1)	24 (25)	0 (0)	30 (34)	
			情報科学専攻	27 (28)	17 (17)	2 (2)	0 (0)	46 (47)	0 (0)	31 (34)	
			環境・エネルギー システム専攻	18 (19)	15 (15)	1 (1)	0 (0)	34 (35)	0 (0)	32 (36)	
			バイオサイエンス専攻	14 (16)	7 (7)	1 (1)	1 (1)	23 (25)	0 (0)	33 (35)	
			計	324 (364)	270 (277)	40 (39)	32 (32)	666 (712)	0 (0)	— (—)	
		合 計	324 (364)	270 (277)	40 (39)	32 (32)	666 (712)	0 (0)	— (—)		
教 員 以 外 の 職 員 の 概 要	職 種			専 任	兼 任			計			
	事 務 職 員			445人 (445)	38人 (38)			483人 (483)			
	技 術 職 員			101 (101)	5 (5)			106 (106)			
	図 書 館 専 門 職 員			16 (16)	0 (0)			16 (16)			
	そ の 他 の 職 員			128 (128)	33 (33)			161 (161)			
	計			690人 (690)	76人 (76)			766人 (766)			
校 地 等	区 分		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用			計			
	校 舎 敷 地		282,046㎡	-	㎡			282,046㎡			
	運 動 場 用 地		84,519㎡	-	㎡			84,519㎡			
	小 計		366,565㎡	-	㎡			366,565㎡			
	そ の 他		3,737,859㎡	-	㎡			3,737,859㎡			
	合 計		4,104,424㎡	-	㎡			4,104,424㎡			
校 舎			専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用			計			
			183,227 ㎡ (183,227 ㎡)	-	㎡ (- ㎡)			183,227 ㎡ (183,227 ㎡)			
教 室 等	講義室		演習室	実験実習室	情報処理学習施設			語学学習施設			大学全体
	145室		135室	521室	12室 (補助職員0人)			9室 (補助職員0人)			
専 任 教 員 研 究 室			新設学部等の名称			室 数					
			山岳流域研究院			14 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称		図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	図書、学術雑誌、電子ジャーナル及び視聴覚資料は、研究科単位での特定不能なため、大学全体の数		
	山岳流域研究院		1,212,000 [343,500] (1,202,747 [343,301])	20,791 [6,640] (20,756 [6,631])	5,470 [5,460] (5,468 [5,452])	6,564 (6,546)	0 (0)	0 (0)			
	計		1,212,000 [343,500] (1,202,747 [343,301])	20,791 [6,640] (20,756 [6,631])	5,470 [5,460] (5,468 [5,452])	6,564 (6,546)	0 (0)	0 (0)			
図 書 館			面積	閲覧座席数			収 納 可 能 冊 数			大学全体	
			12,251㎡	1,085			1,106,652				
体 育 館			面積	体育館以外のスポーツ施設の概要							大学全体
			3,970㎡	水泳プール、テニスコート、武道場、弓道場ほか							
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	国費による (運営費交付金)	
		教員1人当り研究費等		-	-	-	-	-	-		
		共同研究費等		-	-	-	-	-	-		
		図書購入費		-	-	-	-	-	-		
	設備購入費		-	-	-	-	-	-			
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次				
	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円					
学生納付金以外の維持方法の概要			-								

大学等の名称	国立大学法人 静岡大学							
	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
【学部】	年	人	年次人	人		倍		
人文社会科学部						1.02		
社会学科	4	70	-	280	学士 (社会学又は学術)	1.01	昭和57	静岡県静岡市駿河区 大谷836番地
言語文化学科	4	75	-	300	学士 (文学又は学術)	1.03	平成4	同上
法学科	4	90	3年次 2	364	学士 (法学又は学術)	1.01	昭和53	同上
法学科 (夜間主コース)	4	30	3年次 3	126	学士 (法学)	1.00	平成8	同上
経済学科	4	155	-	620	学士 (経済学又は学術)	1.03	昭和53	同上
経済学科 (夜間主コース)	4	30	-	120	学士 (経済学)	1.01	平成8	同上
教育学部						1.01		
学校教育教員養成課程	4	300	-	1200	学士 (教育学)	1.01	平成10	静岡県静岡市駿河区 大谷836番地
情報学部						1.02		
情報科学科	4	100	-	400	学士 (情報学)	1.03	平成8	静岡県浜松市中区 城北三丁目5番1号
行動情報学科	4	70	-	280	学士 (情報学)	1.02	平成28	同上
情報社会学科	4	75	-	300	学士 (情報学又は学術)	1.01	平成8	同上
理学部						1.01		
数学科	4	38	-	152	学士 (理学)	0.97	昭和40	静岡県静岡市駿河区 大谷836番地
物理学科	4	48	-	192	学士 (理学又は学術)	0.98	昭和40	同上
化学科	4	52	-	208	学士 (理学又は学術)	0.90	昭和40	同上
生物科学科	4	52	-	208	学士 (理学又は学術)	0.88	平成18	同上
地球科学科	4	50	-	200	学士 (理学又は学術)	0.95	平成18	同上
工学部						1.02		
機械工学科	4	168	-	672	学士 (工学又は学術)	1.04	平成7	静岡県浜松市中区 城北三丁目5番1号
電気電子工学科	4	110	-	440	学士 (工学)	1.00	平成7	同上
電子物質科学科	4	110	-	440	学士 (工学)	1.00	平成25	同上
化学バイオ工学科	4	112	-	448	学士 (工学又は学術)	1.00	平成25	同上
数理システム工学科	4	50	-	200	学士 (工学)	1.04	平成25	同上
農学部						1.02		
生物資源科学科	4	115	3年次 7	474	学士 (農学又は学術)	1.01	平成28	静岡県静岡市駿河区 大谷836番地
応用生命科学科	4	70	3年次 3	286	学士 (農学)	1.03	平成28	同上
環境森林科学科	4	-	-	-	学士 (農学)		平成18	同上

既設大学等の状況

平成28年度より
学生募集停止

学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
【大学院】								
人文社会科学研究科						1.00		
臨床人間科学専攻	2	11	-	22	修士 (臨床人間科学)	0.99	平成15	静岡県静岡市駿河区 大谷836番地
比較地域文化専攻	2	10	-	20	修士(文学)	1.10	平成9	同上
経済専攻	2	15	-	30	修士(経済学)	0.96	平成17	同上
教育学研究科						1.08		
共同教科開発学専攻	3	4	-	12	博士(教育学)	1.16	平成24	静岡県静岡市駿河区 大谷836番地
教育実践高度化専攻	2	45	-	90	教職修士 (専門職)	0.86	令和2	同上
総合科学技術研究科						1.03		
情報学専攻	2	60	-	120	修士(情報学)	1.17	平成27	静岡県浜松市中区 城北三丁目5番1号
理学専攻	2	70	-	140	修士(理学)	1.11	平成27	静岡県静岡市駿河区 大谷836番地
工学専攻	2	322	-	644	修士(工学)	1.03	平成27	静岡県浜松市中区 城北三丁目5番1号
農学専攻	2	87	-	174	修士(農学)	0.88	平成27	静岡県静岡市駿河区 大谷836番地
光医工学研究科						0.73		
光医工学共同専攻	3	5	-	15	博士(光医工学)	0.73	平成30	静岡県浜松市中区 城北三丁目5番1号
自然科学系教育部						0.79		
ナノビジョン工学専攻	3	10	-	30	博士 (学術又は工学)	0.26	平成18	静岡県浜松市中区 城北三丁目5番1号
光・ナノ物質機能専攻	3	9	-	27	博士 (学術、理学又は工学)	0.73	平成18	同上
情報科学専攻	3	11	-	33	博士 (学術、情報学、理学又は工学)	0.99	平成18	同上
環境・エネルギーシステム専攻	3	7	-	21	博士 (学術、理学又は工学)	1.14	平成18	静岡県静岡市駿河区 大谷836番地
バイオサイエンス専攻	3	8	-	24	博士 (学術、理学、工学又は農学)	0.95	平成18	同上
既設大学等の状況								
附属施設の概要	<p>(附属学校)</p> <p>名称：教育学部附属幼稚園 目的：義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして、幼児を保育し、幼児の健やかな成長のために適当な環境を与えて、その心身の発達を助長するとともに、次に掲げる任務を果たすことを目的とする。 ・教育学部における幼児の保育に関する研究に協力し、教育学部の計画に従い、学生の教育実習の実施に当たること ・保育の理論及び実際に関する研究並びにその実証を行うこと 所在地：静岡県静岡市葵区大岩町1番10号 設置年月：昭和26年4月改称 規模等：土地 5,987㎡、建物 1,020㎡</p> <p>名称：教育学部附属静岡小学校 目的：児童の心身の発達に応じて、義務教育として行われる普通教育のうち基礎的なものを施すとともに、次に掲げる任務を果たすことを目的とする。 ・教育学部における児童の教育に関する研究に協力し、教育学部の計画に従い、学生の教育実習の実施に当たること ・小学校教育の理論及び実際に関する研究並びにその実証を行うこと 所在地：静岡県静岡市葵区駿府町1番94号 設置年月：昭和26年4月改称 規模等：土地 14,223㎡、建物 7,136㎡</p>							

<p>附属施設の概要</p>	<p>名称：教育学部附属浜松小学校 目的：児童の心身の発達に応じて、義務教育として行われる普通教育のうち基礎的なものを施すとともに、次に掲げる任務を果すことを目的とする。 ・教育学部における児童の教育に関する研究に協力し、教育学部の計画に従い、学生の教育実習の実施に当たること ・小学校教育の理論及び実際に関する研究並びにその実証を行うこと 所在地：静岡県浜松市中区布橋3丁目2番1号 設置年月：昭和26年4月改称 規模等：土地 24,170㎡，建物 4,614㎡</p>	
	<p>名称：教育学部附属静岡中学校 目的：小学校における教育の基礎の上に、心身の発達に応じて、義務教育として行われる普通教育を施すとともに、次に掲げる任務を果すことを目的とする。 ・教育学部における生徒の教育に関する研究に協力し、教育学部の計画に従い、学生の教育実習の実施に当たること ・中学校教育の理論的、実証的研究を行うとともに、他の学校との教育研究の協力及び教育研究の成果の交流を行うこと 所在地：静岡県静岡市葵区駿府町1番86号 設置年月：昭和26年4月改称 規模等：土地 18,127㎡，建物 6,293㎡</p>	
	<p>名称：教育学部附属浜松中学校 目的：小学校における教育の基礎の上に、心身の発達に応じて、義務教育として行われる普通教育を施すとともに、次に掲げる任務を果すことを目的とする。 ・教育学部における生徒の教育に関する研究に協力し、教育学部の計画に従い、学生の教育実習の実施に当たること ・中学校教育の理論的、実証的研究を行うとともに、他の学校との教育研究の協力及び教育研究の成果の交流を行うこと 所在地：静岡県浜松市中区布橋3丁目2番2号 設置年月：昭和26年4月改称 規模等：土地 25,884㎡，建物 5,667㎡</p>	
	<p>名称：教育学部附属島田中学校 目的：小学校における教育の基礎の上に、心身の発達に応じて、義務教育として行われる普通教育を施すとともに、次に掲げる任務を果すことを目的とする。 ・教育学部における生徒の教育に関する研究に協力し、教育学部の計画に従い、学生の教育実習の実施に当たること ・中学校教育の理論的、実証的研究を行うとともに、他の学校との教育研究の協力及び教育研究の成果の交流を行うこと 所在地：静岡県島田市中河町169 設置年月：昭和26年4月改称 規模等：土地 23,214㎡，建物 5,285㎡</p>	
	<p>名称：教育学部附属特別支援学校 目的：知的障害者に対して、小学校、中学校又は高等学校に準ずる教育を施し、障害による学習上又は生活上の困難を克服し自立を図るために必要な知識技能を授けるとともに、次に掲げる任務を有する。 ・知的障害者教育の理論及び実際に関する研究を行い教育界の参考に供する。 ・学生の教育実習及び介護等体験を指導する。 所在地：静岡県静岡市葵区大岩町1番15号 設置年月：昭和49年4月（平成19年4月改称） 規模等：土地 22,314㎡，建物 3,732㎡</p>	

<p>附属施設の概要</p>	<p>(農場、演習林)</p> <p>名称：農学部附属地域フィールド科学教育研究センター 目的：持続型農林業の確立及び森林・水圏環境の保全についてのフィールド科学に関する教育研究を行うとともに、地域社会の発展及び国際社会に貢献することを目的とする。 所在地：(持続型農業生態系部門藤枝フィールド) 静岡県藤枝市仮宿63 (森林生態系部門天竜フィールド(上阿多古)) 静岡県浜松市天竜区西藤平1623の1 (森林生態系部門南アルプスフィールド(中川根)) 静岡県榛原郡川根本町元藤川298の7 (水圏生態系部門用宗フィールド) 静岡県静岡市駿河区用宗2丁目28 設置年月：平成14年4月 規模等：(持続型農業生態系部門藤枝フィールド) 土地 137,263㎡, 建物 4,239㎡ (森林生態系部門天竜フィールド(上阿多古)) 土地 608,776㎡, 建物 638㎡ (森林生態系部門南アルプスフィールド(中川根)) 土地 2,592,890㎡, 建物 307㎡ (水圏生態系部門用宗フィールド) 土地 3,346㎡, 建物 479㎡</p>
	<p>(その他)</p> <p>名称：工学部次世代ものづくり人材育成センター 目的：独創性に富んだ科学技術を創造する人材養成のための教育、創造的な基盤研究・研究開発、社会に開かれた「知」の拠点とした社会地域連携を行うことを目的とする。 所在地：静岡県浜松市中区城北3-5-1 設置年月：平成22年4月 規模等：建物 2,887㎡</p>
	<p>名称：電子工学研究所 目的：電子工学に関する学理及びその応用の研究を行うこと並びに大学の教員その他の者で研究所の目的たる研究と同一の分野の研究に従事する者に利用させることを目的とする。 所在地：静岡県浜松市中区城北3-5-1 設置年月：昭和40年4月 規模等：土地 9,608㎡, 建物 4,162㎡</p>
	<p>名称：グリーン科学技術研究所 目的：グリーン科学に関する学理及びその応用の研究を行うこと、大学の教員その他の者で研究所の目的たる研究と同一の分野の研究に従事する者の共同利用に供すること並びに学内における教育・研究のための共同利用を支援することをを目的とする。 所在地：静岡県静岡市駿河区大谷836, 静岡県浜松市中区城北3-5-1 設置年月：平成25年4月 規模等：建物 大谷総合研究棟(5,658㎡)及び城北総合研究棟(9,408㎡)の一部を使用</p>
	<p>名称：大学教育センター 目的：教養教育と学部専門教育の有機的連携を図り、授業内容・方法及び教育組織に対する不断の点検・改善を行うこと並びに教養教育を効果的かつ円滑に実施することを目的とする。 所在地：静岡県静岡市駿河区大谷836 設置年月：平成16年4月 規模等：建物 共通教育A棟(6,346㎡)の一部を使用</p>
	<p>名称：学生支援センター 目的：全学的立場からキャリアサポート、学生相談、学生生活支援及び障がい学生支援の企画・実施を行い、もって本学の学生支援活動の充実発展に寄与することを目的とする。 所在地：静岡県静岡市駿河区大谷836 設置年月：平成22年12月 規模等：建物 共通教育A棟(6,346㎡)の一部を使用</p>
	<p>名称：全学入試センター 目的：静岡大学の入学者選抜に関する企画、広報及びデータ分析等を専門的に調査研究し、各部局で実施する入学試験を専門的立場から支援し、静岡大学における円滑な入学者選抜の実施に寄与することを目的とする。 所在地：静岡県静岡市駿河区大谷836 設置年月：平成16年4月 規模等：建物 共通教育A棟(6,346㎡)の一部を使用</p>

附属施設の概要

名称：情報基盤センター
 目的：静岡大学の情報戦略に基づき、全学情報基盤システムの研究開発及び運用支援を一元的に行うことを目的とする。
 所在地：静岡県浜松市中区城北3-5-1、静岡県静岡市駿河区大谷836
 設置年月：平成21年4月
 規模等：建物 工学部7号館（3,270㎡）、創造科学技術大学院棟（2,412㎡）及び共通教育L棟（5,012㎡）の一部を使用

名称：防災総合センター
 目的：静岡大学における防災教育及び防災科学研究を総合的に展開させるとともに、地域と連携して地域の防災体制の向上に資することを目的とする。
 所在地：静岡県静岡市駿河区大谷836
 設置年月：平成20年4月
 規模等：建物 大学会館（2,452㎡）の一部を使用

名称：浜松キャンパス共同利用機器センター
 目的：静岡大学の学内共同教育研究施設として、各種大型評価・分析機器等を利用する教育、研究及び企業等からの試験委託の用に供するとともに、関連技術の研究・開発等を行い、もって本学の教育研究の進展及び産学連携活動の推進に資することを目的とする。
 所在地：静岡県浜松市中区城北3-5-1
 設置年月：平成22年4月
 規模等：建物 城北総合研究棟（9,408㎡）の一部を使用

名称：教職センター
 目的：静岡大学における教員養成等カリキュラムの管理・運営体制の整備を行い、組織的指導体制を確立することを目的とする。
 所在地：静岡県静岡市駿河区大谷836
 設置年月：平成27年4月
 規模等：建物 共通教育A棟（6,346㎡）の一部を使用

名称：地域創造教育センター
 目的：静岡大学において地域社会との教育連携の中核的役割を担い、地域志向を持った人材を育成するとともに、教育研究を通じて地域社会が抱える課題解決に寄与することにより、地域社会の発展に貢献することを目的とする。
 所在地：静岡県静岡市駿河区大谷836
 設置年月：平成29年10月
 規模等：建物 共通教育A棟（6,346㎡）の一部を使用

名称：サステナビリティセンター
 目的：地域社会や国際社会におけるステークホルダーと共に、学際的な教育研究をはじめとした多様な取組を推進することにより、持続可能な開発目標（SDGs）の達成に資することを目的とする。
 所在地：静岡県静岡市駿河区大谷836
 設置年月：令和2年4月
 規模等：建物 共通教育A棟（6,346㎡）の一部を使用

名称：イノベーション社会連携推進機構
 目的：静岡大学における産学連携と地域連携に関わる戦略を全学的かつ一体的な観点から確立し、静岡大学の教育研究成果を社会に積極的に還元し社会連携を推進することにより、地域等の発展に資することを目的とする。
 所在地：静岡県浜松市中区城北3-5-1
 設置年月：平成24年4月
 規模等：建物 2,627㎡

名称：全学教育基盤機構
 目的：静岡大学における教育、学生支援及び入学者選抜（以下「教育等」という。）に関する基本方針及び主要施策その他教育等に関する事項について、全学的な観点から検討し、その結果に基づき、本学の教育等の質の向上及び一層の推進を図ることを目的とする。
 所在地：静岡県静岡市駿河区大谷836
 設置年月：平成27年4月
 規模等：－

<p>附属施設の概要</p>	<p>名称：国際連携推進機構 目的：静岡大学における国際連携に関わる戦略を全学的な観点から検討し、静岡大学の理念及び基本方針に沿った総合的かつ効果的な国際連携の一層の推進を図ることを目的とする。 所在地：静岡県静岡市駿河区大谷836, 静岡県浜松市中区城北3-5-1 設置年月：平成29年10月 規模等：建物 共通教育A棟（6,346㎡）及び工学部7号館（3,270㎡）の一部を使用</p> <p>名称：未来社会デザイン機構 目的：静岡大学における持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向け、地域に住む人々のウェルビーイング及び持続可能な社会構築並びに分野横断的な教育研究の発展を、新たな社会的価値の創造及び未来社会のデザインに基づき、大学の有する学術的資産の集約的投資及び産官学民の共創により実現することを目的とする。 所在地：静岡県静岡市駿河区大谷836 設置年月：令和2年4月 規模等：建物 共通教育A棟（6,346㎡）の一部を使用及び東部サテライトの一部を使用</p>	
----------------	--	--

教育課程等の概要																
(研究科等連係課程実施基本組織 山岳流域研究院)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
分野横断型科目	山岳流域環境学概論A	1前	1			○			1	2		1			オムニバス 集中	
	山岳流域環境学概論B	1前	1			○			1	2		1			オムニバス 集中	
	山岳流域フィールド実習A	1後	1					○		2		1			オムニバス 集中	
	山岳流域フィールド実習B	1・2前	1					○		1					集中	
	山岳流域コミュニケーションスキル	2後	1					○		1					集中	
小計 (5科目)		—	5	0	0			—	1	3	0	2	0	0		
専門科目	人文・社会・実践系科目群	山岳流域共生学概論	1前		1		○			1					兼4	オムニバス
		Field Practice in Tenryu Forests: from Plantation to Natural Laurel Forest	1後		1			○			2		1			集中 オムニバス
		流域社会学特論	1前		1		○				1					
		地域産業論	1前		1		○				1					
		山岳流域防災学特論	1後		1		○			1						
		自治体財政論	1後		2		○			1						
		政府間財政関係演習A	1前		2			○		1						隔年
		政府間財政関係演習B	1前		2			○		1						隔年
		環境政策と法	1後		2		○								兼2	オムニバス・ 共同 (一部)
		経済発展論演習A	1前		2			○		1						隔年
		経済発展論演習B	1前		2			○		1						隔年
		マーケティング戦略	1前		2		○				1					
小計 (12科目)		—	0	19	0			—	3	5	0	1	0	兼5		
専門科目	自然科学系科目群	動物生理学特論	1・2後		1		○			1						
		植物分類学特論	1・2後		1		○			1						
		Advanced Forest Ecology I	1・2前		1		○		1							集中
		Advanced Forest Ecology II	1・2前		1		○		1							集中 ※演習
		Environmental Remote SensingA	1・2前		1		○		1							集中
		Environmental Remote SensingB	1・2前		1		○			1						集中
		森林水文学特論 I	1後		1		○					1				
		森林水文学特論 II	1後		1		○					1				
		森林生理生態学特論 I	1後		1		○				1					集中 ※演習
		森林生理生態学特論 II	1後		1			○			1					集中 ※講義
		森林生態学演習	1・2前		2			○			1					
		森林生態管理学演習	1後		1			○			1					集中
		造林学特論 I	1後		1		○				1					
		造林学特論 II	1後		1		○				1					
		砂防工学演習	1・2前		2			○		1			1			オムニバス 集中
小計 (15科目)		—	0	17	0			—	2	5	0	2	0	0		
特別研究	山岳流域学特別研究	1・2通	12					○	4	6		2			共同	
小計 (1科目)		—	12	0	0			—	4	6	0	2	0	0		
合計 (33科目)			—	17	36	0		—	4	8	0	2	0	兼5		
学位又は称号		修士 (流域学)			学位又は学科の分野			農学関係								
卒業要件及び履修方法								授業期間等								
修了要件は山岳流域研究院に2年以上在学し、所定の単位30単位 (分野横断型科目5単位、専門科目13単位 (専門科目13単位のうち、人文・社会・実践系科目群、自然科学系科目群からそれぞれ4単位以上)、特別研究科目12単位) を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格した者とする。								1学年の学期区分			2期					
								1学期の授業期間			15週					
								1時限の授業時間			90分					

教育課程等の概要																
(人文社会科学部研究科臨床人間科学専攻)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
研究科共通科目	海外実習Ⅰ	1・2前後		1				○	1	1					兼1 共同 共同	
	海外実習Ⅱ	1・2前後		1				○	1	1						
	スクールインターンシップ	1・2通			4			○								
	大学院インターンシップ	1・2前後			2			○	1	1						
	小計(4科目)	—	0	2	6			—	3	3	0	0	0	兼1		
専攻必修科目	総合講義	1・2前	2			○			6	1					オムニバス オムニバス	
	対人援助の倫理と法	1・2後	2			○			8		1					
	小計(2科目)	—	4	0	0			—	12	1	1	0	0	0		
	臨床人間科学特別演習Ⅰ	2前	2				○		8	1						共同 共同
	臨床人間科学特別演習Ⅱ	2後	2				○		7							
小計(2科目)	—	4	0	0			—	8	1	0	0	0	0			
研究法	臨床心理学研究法Ⅰ	1前		2		○			6						共同 共同 共同 共同 共同 共同 共同 共同	
	臨床心理学研究法Ⅱ	1後		2		○			6							
	臨床人間学研究法Ⅰ	1前		2		○			2							
	臨床人間学研究法Ⅱ	1後		2		○			2							
	臨床社会学研究法Ⅰ	1前		2		○			3	1						
	臨床社会学研究法Ⅱ	1後		2		○			3	1						
	臨床身体運動学研究法Ⅰ	1前		2		○			1	2	1					
	臨床身体運動学研究法Ⅱ	1後		2		○			1	2	1					
	小計(8科目)	—	0	16	0			—	12	3	1	0	0	0		
専攻共通	質的調査演習	1・2後		2			○		1							
	質的分析演習	1・2前		2			○			1						
	量的調査演習	1・2後		2			○		1							
	計量分析演習	1・2後		2			○		1							
	実験研究法演習	1・2前		2			○		1							
	運動生理測定法演習	1・2後		2			○		1							
	臨床人間科学学外実習Ⅰ	1・2前		1				○	1							
	臨床人間科学学外実習Ⅱ	1・2通		1				○	1							
	小計(8科目)	—	0	14	0			—	6	1	0	0	0	0		
臨床心理学コース	臨床心理学特論	1・2前		2		○			1						共同 共同 兼1 兼1 兼2 兼1	
	臨床心理学論	1・2前		2		○			1							
	臨床心理面接特論（心理支援に関する理論と実践）	1・2前		2		○			1		1					
	臨床心理面接演習	1・2後		2		○			1		1					
	臨床心理査定特論（心理的アセスメントに関する理論と実践）	1・2前		2		○			1							
	臨床心理査定演習	1・2後		2		○			1							
	コミュニティ・アプローチ特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	1・2前		1		○			1							
	臨床心理基礎実習Ⅰ	1前		1			○		5							
	臨床心理基礎実習Ⅱ	1後		1			○		5		1					
	臨床心理学外実習Ⅰ（心理実践実習Ⅰ）	1・2通		4			○		5		1					
	臨床心理学外実習Ⅱ（心理実践実習Ⅱ）	1・2通		2			○		2		1					
	臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習Ⅲ）	2通		4			○		5		1					
	臨床心理実習Ⅱ	2通		1			○		5		1					
	臨床心理学講義演習Ⅰ	1・2後		2			○		1							
臨床心理学講義演習Ⅱ	1・2後		2			○		1								

専攻 選択科目	臨床心理学コース	認知心理学特論	1・2前	2	○								兼1	集中	
		精神医学特論(保健医療分野に関する理論と支援の展開)	1・2前	2	○			1							
		心理療法特論	1・2前	1	○									兼1	集中
		家族心理臨床特論	1・2前	1	○									兼1	集中
		司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開	1・2前	1	○									兼1	集中
		グループ・アプローチ演習Ⅱ	1・2前	2	○			1							
	小計(21科目)	—	0	39	0	—		6	0	1	0	0	兼9		
	臨床人間科学コース	ヒューマン・ケアと医療の倫理学	1・2後	2	○			1							
		臨床倫理学演習Ⅱ	1・2前	2		○		1							
		社会倫理学	1・2前	2		○		1							
		徳倫理学演習Ⅱ	1・2後	2		○		1							
		臨床社会心理学演習Ⅱ	1・2前	2		○		1							
		スポーツ健康科学特論	1・2前	2	○				1						
		健康運動科学演習Ⅰ	1・2後	2		○			1						
		対人支援の社会学	1・2前	2		○								兼1	集中
		教育臨床の社会学	1・2後	2		○		1							
		社会的不平等論演習Ⅱ	1・2前	2		○		1							
		リプロダクションの社会学	1・2前	2		○		1							
		地域と共生の社会学	1・2前	2		○			1						
		地域マネジメント演習Ⅱ	1・2前	2		○			1						
スポーツプロモーション特論		1・2前	2		○			1							
健康スポーツ社会学演習Ⅰ	1・2後	2		○			1	1					共同		
小計(15科目)	—	0	30	0	—		6	3	1	0	0	兼1			
合計(60科目)		—	8	101	6	—		12	3	2	0	0	兼9		
学位又は称号		修士(臨床人間科学)			学位又は学科の分野			社会学・社会福祉学関係							
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
<p>修了に必要な授業科目30単位以上を修得し、研究指導を受けた上、修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格すること。修士論文作成又は特定の課題遂行の指導を受ける「特別演習」は必修科目で、それらに向けた研究法指導の導入科目として「研究法」を選択必修科目に設定してある。修了に必要な授業科目30単位以上の履修方法の内訳は以下のとおり。</p> <p>本専攻の必修科目である総合講義の「臨床人間科学(2単位)」と「対人援助の倫理と法(2単位)」を修得し、修士論文の作成に必要な指導教員の指導に基づく「臨床人間科学特別演習Ⅰ(2単位)」と「臨床人間科学特別演習Ⅱ(2単位)」を修得する。選択必修科目については、「臨床心理学研究法Ⅰ・Ⅱ」、「臨床人間学研究法Ⅰ・Ⅱ」、「臨床社会学研究法Ⅰ・Ⅱ」、「臨床身体運動学研究法Ⅰ・Ⅱ」(それぞれ各2単位、合計4単位)のいずれかの研究法の修得とこれらの研究法を除く専攻内の講義又は演習・実習を6単位修得する。</p> <p>これらの必修科目8単位(総合講義4単位、特別演習4単位)、選択必修科目10単位(研究法4単位、研究法を除く専攻内の講義又は演習・実習6単位)を修得し、残りの12単位については自由科目として区分され、本専攻および他の専攻内で開講する科目を修得する。なお、臨床心理学コースの開講科目は、公認心理師や臨床心理士の資格を取得するために開講されており、(厚生労働省への事前の届出による)公認心理師法に基づく科目や、(財)日本臨床心理士資格認定協会への事前の届出による)当該協会指定科目が開講されており、コース限定の履修科目になっている。</p>							1学年の学期区分		2期						
							1学期の授業期間		15週						
							1時限の授業時間		90分						

教育課程等の概要															
(人文社会科学部比較地域文化専攻)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
研究科共通科目	海外実習Ⅰ	1・2前後		1				○	1	1					共同
	海外実習Ⅱ	1・2前後		1				○	1	1					共同
	スクールインターンシップ	1・2通			4			○						兼1	共同
	大学院インターンシップ	1・2前後			2			○	1	1					共同
	小計（4科目）	—	0	2	6	—			3	3	0	0	0	兼1	
専攻必修科目	特別演習Ⅰ	2前	2					○	4	3					共同
	特別演習Ⅱ	2後	2					○	4	3					共同
	小計（2科目）	—	4	0	0	—			4	3	0	0	0	0	
総合講義	社会変動と思想	1・2前		2				○	1	2					オムニバス
	日本文化事情	1・2後		2				○	1						
	小計（2科目）	—	0	4	0	—			2	2	0	0	0	0	
研究法	歴史・文化論研究法	1前		2				○		1					
	言語文化論研究法	1前後		2				○	3						共同
	小計（2科目）	—	0	4	0	—			3	1	0	0	0	0	
専攻選択科目	歴史・文化論コース														
	古代ギリシアの思想と文化	1・2後		2				○							兼1
	宗教と倫理	1・2前		2				○		1					
	哲学・宗教演習Ⅱ	1・2後		2				○		1					
	女性と生命	1・2後		2				○	1						
	女性と生命文化演習Ⅱ	1・2前		2				○	1						
	社会主義圏における民族問題と文化変容	1・2前		2				○	1						
	社会主義圏における民族誌論演習Ⅱ	1・2後		2				○	1						
	多文化社会論	1・2前		2				○		1					
	多文化社会論演習Ⅱ	1・2後		2				○		1					
	東アジア地域社会論	1・2前		2				○		1					
	東アジア地域社会論演習Ⅱ	1・2後		2				○		1					
	日本中世の環境と文化	1・2前		2				○		1					
	日本中世社会史演習Ⅱ	1・2後		2				○		1					
	日本近世の法と社会	1・2前		2				○		1					
	日本近世史演習Ⅱ	1・2後		2				○		1					
	近現代中国の社会と文化	1・2前		2				○		1					
	中国近現代史演習Ⅱ	1・2後		2				○		1					
	中世ヨーロッパの文化と社会	1・2前		2				○		1					
	中世ヨーロッパ史演習Ⅱ	1・2後		2				○		1					
	弥生時代の文化と社会	1・2前		2				○		1					
	農耕文化論演習Ⅱ	1・2後		2				○		1					
	旧石器時代の文化と社会	1・2前		2				○		1					
	先史文化論演習Ⅱ	1・2後		2				○		1					
	東海地域の自然と文化	1・2前		2				○							兼1
人文地理学演習Ⅱ	1・2後		2				○							兼1	
小計（25科目）	—	0	50	0	—			7	5	0	0	0	兼2		

専攻 選 択 科 目	言 語 文 化 論 コ ー ス	日本近世言語文化研究	1・2前	2	○	○	1								
		日本近世メディア演習Ⅱ	1・2後	2	○	○	1								
		日本近代文化テキスト研究	1・2後	2	○			1							
		ジェンダーの日本近代文学演習Ⅱ	1・2前	2	○			1							
		中国近現代文芸思潮研究	1・2後	2	○			1							
		中国近現代文学演習Ⅱ	1・2前	2	○			1							
		中世ヨーロッパ文化研究	1・2後	2	○			1							
		中世英文学・図像学演習Ⅱ	1・2前	2	○			1							
		アメリカ文学研究	1・2後	2	○			1							
		アメリカ近現代小説演習Ⅱ	1・2前	2	○			1							
		現代ドイツ文学研究	1・2前	2	○				1						
		ドイツ小説論演習Ⅱ	1・2後	2	○				1						
		フランス近現代の芸術と文化	1・2前	2	○			1							
		20世紀フランス文学演習Ⅱ	1・2後	2	○			1							
		英語構造論演習Ⅱ	1・2後	2	○				1						
		中国語史学演習Ⅱ	1・2前	2	○			1							
		現代ドイツ語文法論・意味論研究	1・2前	2	○			1							
		現代ドイツ語学演習Ⅱ	1・2後	2	○			1							
		日本語学研究法	1・2前	2	○			1							
		日本語史学演習Ⅱ	1・2後	2	○			1							
		言語と性	1・2前	2	○			1							
		社会言語学演習Ⅱ	1・2後	2	○			1							
		言語変化と言語理論	1・2前	2	○			1							
		現代英語学演習Ⅱ	1・2後	2	○			1							
		北米インディアン諸語研究	1・2後	2	○			1							
		言語類型論演習Ⅱ	1・2前	2	○			1							
		日韓比較文化論	1・2前	2	○			1							
		日韓比較文学論演習Ⅱ	1・2後	2	○			1							
		スペイン・ラテンアメリカ文化研究	1・2前	2	○			1							
		比較文化史演習Ⅱ	1・2後	2	○			1							
		スペイン文化研究	1・2前	2	○			1							
		ヨーロッパ比較文化史演習Ⅱ	1・2後	2	○			1							
		近現代日本の文学とメディア	1・2前	2	○				1						
		近現代日本の文学とメディア演習Ⅱ	1・2後	2	○				1						
		日本表象文化史研究	1・2前	2	○					1					
		日本表象文化史演習Ⅱ	1・2後	2	○					1					
小計 (36科目)	—	0	72	0	—	14	4	1	0	0	0				
合計 (71科目)	—	4	132	6	—	20	9	1	0	0	兼3				
学位又は称号	修士 (文学)	学位又は学科の分野				文学関係									
卒業要件及び履修方法						授業期間等									
<p>修了に必要な授業科目30単位以上を修得し、研究指導を受けた上、修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格すること。修士論文作成又は特定の課題遂行の指導を受ける「特別演習」は必修科目で、それらに向けた研究法指導の導入科目として「研究法」を選択必修科目に設定してある。修了に必要な授業科目30単位以上の履修方法の内訳は以下のとおり。</p> <p>本専攻の必修科目である修士論文の作成に必要な指導教員の指導に基づく「比較地域文化特別演習Ⅰ (2単位)」と「比較地域文化特別演習Ⅱ (2単位)」を修得する。選択必修科目については、本専攻の総合講義である「社会変動と思想」、「日本文事情」(それぞれ各2単位、合計4単位)を修得(特に留学生には、この「日本文事情」の受講を義務付けている。)し、指導教員による演習2単位、所属するコースの研究法(「歴史・文化論研究法」又は「言語文化論研究法」のいずれかの研究法、それぞれ各2単位)の修得とこれらの総合講義と研究法を除く専攻内の講義又は演習・実習を8単位修得する。</p> <p>これらの必修科目4単位(特別演習4単位)、選択必修科目16単位(総合講義4単位、指導教員による演習2単位、所属するコースの研究法2単位、総合講義・研究法を除く専攻内の講義又は演習・実習8単位)を修得し、残りの10単位については自由科目として区分され、本専攻および他の専攻内で開講する科目を修得する。</p>						1学年の学期区分		2期							
						1学期の授業期間		15週							
						1時限の授業時間		90分							

教育課程等の概要															
(人文社会科学研究科経済専攻)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
研究科共通科目	海外実習Ⅰ	1・2前後		1				○	1	1					共同
	海外実習Ⅱ	1・2前後		1				○	1	1					
	スクールインターンシップ	1・2通			4			○						兼1	共同
	大学院インターンシップ	1・2前後			2			○	1	1					
	小計(4科目)	—	0	2	6			—	3	3	0	0	0	兼1	
専攻必修科目	特別演習														
	経済特別演習Ⅰ	2前	2					○	11	6					共同
	経済特別演習Ⅱ	2後	2					○	11	6					共同
	小計(2科目)	—	4	0	0			—	11	6	0	0	0	0	
研究法	国際経営コース基礎講義Ⅰ	1前		2				○	6	3					共同
	国際経営コース基礎講義Ⅱ	1後		2				○	6	3					共同
	地域公共政策コース基礎講義Ⅰ	1前		2				○	5	3					共同
	地域公共政策コース基礎講義Ⅱ	1後		2				○	5	3					共同
	小計(4科目)	—	0	8	0			—	11	6	0	0	0	0	
専攻選択科目	国際経営コース														
	企業情報システム	1・2後		2				○	1						
	企業情報システム演習Ⅱ	1・2前		2				○	1						
	経営戦略論	1・2前		2				○		1					
	経営戦略論演習Ⅱ	1・2後		2				○		1					
	マーケティング戦略	1・2前		2				○		1					
	マーケティング演習Ⅱ	1・2後		2				○		1					
	計量経済学	1・2後		2				○	1						
	計量経済学演習Ⅱ	1・2前		2				○	1						
	会計学	1・2後		2				○	1						
	会計学演習Ⅱ	1・2前		2				○	1						
	税務会計論	1・2後		2				○	1						
	税務会計論演習Ⅱ	1・2前		2				○	1						
	経済情報システム	1・2前		2				○	1						
	経済情報論演習Ⅱ	1・2後		2				○	1						
	多国籍銀行論	1・2前		2				○	1						
	多国籍銀行論演習Ⅱ	1・2後		2				○	1						
	国際貿易論	1・2後		2				○	1						
	経済発展論演習Ⅱ	1・2前		2				○	1						
	マクロ経済動学	1・2前		2				○		1					
経済成長論演習Ⅱ	1・2後		2				○		1						
小計(20科目)	—	0	40	0			—	7	3	0	0	0	0		

専攻 選択科目	経済統計分析	1・2前		2		○		1							
	統計学演習Ⅱ	1・2後		2			○	1							
	政策シミュレーション論	1・2前		2		○		1							
	政策シミュレーション演習Ⅱ	1・2後		2			○	1							
	経済政策システム	1・2前		2		○		1							
	経済政策演習Ⅱ	1・2後		2			○	1							
	都市経済学	1・2前		2		○		1							
	公共政策演習Ⅱ	1・2後		2			○	1							
	自治体財政論	1・2後		2		○		1							
	政府間財政関係演習Ⅱ	1・2前		2			○	1							
	地域政策論	1・2後		2		○			1						
	地域政策分析演習Ⅱ	1・2前		2			○		1						
	地域統合論	1・2前		2		○		1							
	地域統合論演習Ⅱ	1・2後		2			○		1						
	環境政策論	1・2後		2		○		1							
	環境政策論演習Ⅱ	1・2前		2			○		1						
	財政学	1・2前		2		○			1						
	財政学演習Ⅱ	1・2後		2			○		1						
	現代産業論	1・2前		2		○			1						
	現代産業論演習Ⅱ	1・2後		2			○		1						
	社会保障論	1・2後		2		○			1						
	社会保障論演習Ⅱ	1・2前		2			○		1						
	地域経営論	1・2前		2		○			1						
	地域経営論演習Ⅱ	1・2後		2			○		1						
小計 (24科目)	—		0	48	0	—		7	5	0	0	0	0		
合計 (54科目)		—	4	98	6	—		15	8	0	0	0	兼1		
学位又は称号	修士 (経済学)	学位又は学科の分野				経済学関係									
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
<p>修了に必要な授業科目30単位以上を修得し、研究指導を受けた上、修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格すること。修士論文作成又は特定の課題遂行の指導を受ける「特別演習」は必修科目で、それらに向けた研究法指導の導入科目として「研究法」を選択必修科目に設定してある。修了に必要な授業科目30単位以上の履修方法の内訳は以下のとおり。</p> <p>本専攻の必修科目である修士論文の作成に必要な指導教員の指導に基づく「経済特別演習Ⅰ (2単位)」と「経済特別演習Ⅱ (2単位)」を修得する。選択必修科目については、所属するコースの研究法 (「国際経営コース基礎講義Ⅰ・Ⅱ」又は「地域公共政策コース基礎講義Ⅰ・Ⅱ」、それぞれ各2単位、合計4単位) の修得とこれらの研究法を除く専攻内の講義又は演習・実習を10単位修得する。</p> <p>これらの必修科目4単位 (特別演習4単位)、選択必修科目14単位 (所属するコースの研究法4単位、研究法を除く専攻内の講義又は演習・実習10単位) を修得し、残りの12単位については自由科目として区分され、本専攻および他の専攻内で開講する科目を修得する。</p>							1 学年の学期区分		2 期						
							1 学期の授業期間		1 5 週						
							1 時限の授業時間		9 0 分						

教育課程等の概要																
（総合科学技術研究科情報学専攻）																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
研究科 共通科目	現代経営論	1・2後		2		○									兼2 兼1 兼1	共同
	希少資源戦略論	1・2前		2		○									兼13	オムニバス
	先端機器分析科学Ⅰ	1・2前		2		○									兼7	オムニバス
	先端機器分析科学Ⅱ	1・2後		2		○									兼1	
	フロンティア科学特論Ⅰ	1・2前		1		○									兼1	
	フロンティア科学特論Ⅱ	1・2後		1		○									兼1	
	科学技術者倫理	1前		2		○				1					兼6	オムニバス
	現代科学の最前線Ⅰ	1・2前		1		○									兼7	オムニバス
	現代科学の最前線Ⅱ	1・2後		1		○									兼7	オムニバス
	科学技術政策特論	1・2前		2		○									兼1	
	マーケティング論	1・2後		2		○									兼1	
	情報システム論	1・2前		2		○									兼2	オムニバス
	情報セキュリティマネジメント論	1・2後		2		○									兼1	
	応用数学概論	1・2前		2		○									兼1	
	応用数学特論	1・2前		2		○									兼1	
	量子工学特論	1・2前		2		○									兼1	
	工学基礎化学特論Ⅰ	1・2前		2		○									兼1	
	工学基礎化学特論Ⅱ	1・2後		2		○									兼1	
	応用生命科学概論	1・2前		2		○									兼1	
	応用プログラミング	1・2前		2				○				1				集中
	システム・ネットワーク論	1・2前		2		○				4						オムニバス
	コミュニケーション論	1・2後		2		○				3		1				オムニバス
	情報資源総論	1・2前		2		○				2	3					オムニバス
	情報社会セキュリティ論	1・2後		2		○				1	1					オムニバス
	先端フィールド科学特別演習	1・2通		2		○									兼1	
	統合オミックス特論Ⅰ	1・2前		2		○									兼2	オムニバス
	統合オミックス特論Ⅱ	1・2後		2		○									兼3	オムニバス
	分子構造解析特論	1・2前		2		○									兼3	オムニバス
	分子構造解析演習	1・2前		1				○							兼2	オムニバス
	次世代シーケンサーWET演習	1・2後		1				○							兼1	
	次世代シーケンサーDRY解析演習	1・2前		1				○							兼1	集中
	災害情報学特論	1・2前		2		○									兼1	
	津波工学特論	1・2後		2		○									兼1	集中
	リスクマネジメント概論	1・2前		2		○									兼1	
	地震災害論	1・2前		1											兼1	集中
	火山災害論	1・2後		1											兼1	集中
	Science and Technology in Japan	1・2前		2		○									兼1	
	Shizuoka Enterprises in South and Southeast Asia	1・2後		2		○									兼1	
	Professional Presentations in English	1・2後		1				○		1					兼1	共同
	English Thesis Writing	1・2後		1				○		1					兼1	共同
	大学院キャリアデザイン	1・2前		1		○									兼4	集中 共同
	大学院インターンシップ	1・2通		1					○						兼1	集中
	スクールインターンシップ	1通		4					○						兼1	
	海外大学交流研修	1・2通		2					○						兼1	
	創造科学技術入門セミナーⅡ	1・2前		1		○									兼7	オムニバス
	創造科学技術先端機器分析演習Ⅱ	2後		1				○							兼1	
小計（46科目）		—	0	79	0			—	11	5	1	0	0	兼69	—	

コース 必修 科目	情報学演習Ⅰ	1通	2			○		30	18	7				共同
	情報学演習Ⅱ	2通	2			○		30	18	7				共同
	情報学研究Ⅰ	1通	4			○		30	18	7				共同
	情報学研究Ⅱ	2通	4			○		30	18	7				共同
	小計(4科目)	—	12	0	0	—		30	18	7	0	0	0	—
計算機 科学 プロ グラ ム	ソフトウェア工学	1・2前		2		○								兼1
	ソフトウェア工学応用演習	1・2後		2		○		1	1					オムニバス
	ソフトウェア設計技術	1・2前		2		○			1					
	アーキテクチャ設計論	1・2後		2		○		1						
	データ工学	1・2後		2		○			3					オムニバス
	ネットワークシステム論	1・2前		2		○		2	2					オムニバス
	情報セキュリティ論	1・2前		2		○		1						
	知的インターフェース論	1・2後		2		○		1		2				オムニバス
	離散情報処理論	1・2前		2		○		1						
	計算過程論	1・2後		2		○		1	1					オムニバス
	音声情報処理論	1・2後		2		○		2	2					オムニバス
	画像情報処理論	1・2後		2		○		4		1				オムニバス
	プログラミング言語論	1・2後		2		○			1					
	計算言語学	1・2前		2		○			1	1				オムニバス
	認知科学論	1・2前		2		○		1	2					オムニバス
小計(15科目)	—	0	30	0	—		13	12	4	0	0	兼1	—	
コース 選 択 科 目	ソフトウェア工学	1・2前		2		○								兼1
	ネットワークシステム論	1・2前		2		○		2	2					オムニバス
	情報セキュリティ論	1・2前		2		○		1						
	知的インターフェース論	1・2後		2		○		1		2				オムニバス
	認知科学論	1・2前		2		○		1	2					オムニバス
	企業情報システム論	1・2後		2		○		1						
	情報組織化論	1・2前		2		○		1	1					オムニバス
	デジタルコンテンツ特論	1・2前		2		○		2						オムニバス
	エージェント・シミュレーション論	1・2前		2		○			2					集中 オムニバス
	教育情報システム論	1・2後		2		○		1						
	情報システム評価論	1・2前		2		○		1						
	情報システム設計論	1・2前		2		○		2	2					兼2 オムニバス
	地理情報科学特論	1・2後		2		○				1				
	実践マネジメント特論	1・2前		2		○		1						兼3 集中 オムニバス
	ジョブシミュレーション	1・2前		2		○		1						集中
	統計学特論	1・2後		2		○		1						
	自然言語処理特論	1・2前		2		○			1					
プログラミング言語論	1・2後		2		○			1						
データ工学	1・2後		2		○				3				オムニバス	
計算言語学	1・2前		2		○			1	1				オムニバス	
eコマース特論	1・2後		2		○		1						兼1 集中 オムニバス	
小計(21科目)	—	0	42	0	—		15	11	4	0	0	兼7	—	
情報 社会 デ ザ イ ン プ ロ グ ラ ム	認知科学論	1・2前		2		○		1	2					オムニバス
	企業情報システム論	1・2後		2		○		1						
	情報組織化論	1・2前		2		○		1	1					オムニバス
	地理情報科学特論	1・2後		2		○				1				
	実践マネジメント特論	1・2前		2		○		1						兼3 集中 オムニバス
	IT技術倫理と社会	1・2後		2		○		1	1					オムニバス
	情報政策特論	1・2後		2		○		1	1					オムニバス
	コミュニティデザイン特論	1・2後		2		○		2	2		1			オムニバス
	電子メディア特論	1・2後		2		○				1				
	メディアスタディーズ特論	1・2後		2		○					1			
eコマース特論	1・2後		2		○		1						兼1 集中 オムニバス	
グローバルコミュニケーション特論	1・2前		2		○			1						
デジタルコンテンツ特論	1・2前		2		○		2						オムニバス	
小計(13科目)	—	0	26	0	—		10	6	1	2	0	兼4	—	

コース 選択科目	社会人再教育のための特別プログラム	情報組織化論	1・2前	2		○			1	1						兼2	オムニバス		
		情報システム設計論	1・2前	2		○			2	2							兼3	オムニバス	
		実践マネジメント特論	1・2前	2		○			1								兼3	オムニバス	
		eコマース特論	1・2後	2		○			1								兼1	オムニバス	
		グローバルコミュニケーション特論	1・2前	2		○				1									
		社会人再教育のための情報学特別講義I	1前・後	2		○			1										
		社会人再教育のための情報学特別講義II	1前・後	2		○			2									共同	
		社会人再教育のための情報学特別講義III	2前・後	2		○			1										
		情報教育カリキュラム設計論	1・2後	2		○			1										集中
		情報科教育法特論	1・2前	2		○			1										集中
		情報数学特論	1・2後	2		○			1										集中
		プログラミング特論	1・2後	2		○			1										集中
		ネットワーク特論	1・2後	2		○			1										集中
	小計 (13科目)	—	0	26	0		—		11	3	0	0	0	0	0	兼6	—		
	プログラム外科目群	言語理論特論	1・2前	2		○			1										
		ミュージアムコンテンツ論	1・2前	2		○			1										
		情報拡散過程論	1・2後	2		○					1								
		情報教育カリキュラム設計論	1・2後	2		○			1									集中	
		情報科教育法特論	1・2前	2		○			1									集中	
	小計 (5科目)	—	0	10	0			4	0	1	0	0	0	0	0	—			
合計 (117科目)		—	12	213	0		—	31	18	9	2	0	0	0	兼82	—			

学位又は称号	修士（情報学）	学位又は学科の分野	工学関係、社会学・社会福祉学関係
卒業要件及び履修方法		授業期間等	
<p>修士課程に2年以上在学し、所定の単位を30単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格すること。ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げた者については、1年以上在学すれば足りるものとする。</p> <p>なお、プログラムごとの所定の単位の内訳は以下のとおりである。</p> <p>【計算機科学プログラム】</p> <p>①必修科目12単位を修得していること。</p> <p>②研究科共通科目の「システム・ネットワーク論」「コミュニケーション論」「情報資源総論」「情報社会セキュリティ論」のうち2科目を含む4単位以上を修得していること。</p> <p>③計算機科学プログラムの選択科目から14単位以上を修得していること。ただし研究科共通科目の単位を4単位を超えて修得した場合、超過単位は4単位まで計算機科学プログラムの選択科目の単位に算入できる。また指導教員の許可を得て、他大学院、他研究科、他専攻、他プログラム（「社会人再教育のための特別プログラム」を除く）、プログラム外科目群から10単位まで計算機科学プログラムの選択科目の単位に算入できる。</p> <p>【行動情報学プログラム】</p> <p>①必修科目12単位を修得していること。</p> <p>②研究科共通科目の「システム・ネットワーク論」「コミュニケーション論」「情報資源総論」「情報社会セキュリティ論」のうち2科目を含む4単位以上を修得していること。</p> <p>③行動情報学プログラムの選択科目から14単位以上を修得していること。ただし研究科共通科目の単位を4単位を超えて修得した場合、超過単位は4単位まで行動情報学プログラムの選択科目の単位に算入できる。また指導教員の許可を得て、他大学院、他研究科、他専攻、他プログラム（「社会人再教育のための特別プログラム」を除く）、プログラム外科目群から10単位まで行動情報学プログラムの選択科目の単位に算入できる。</p> <p>【情報社会デザインプログラム】</p> <p>①必修科目12単位を修得していること。</p> <p>②研究科共通科目の「システム・ネットワーク論」「コミュニケーション論」「情報資源総論」「情報社会セキュリティ論」のうち2科目を含む4単位以上を修得していること。</p> <p>③情報社会デザインプログラムの選択科目から14単位以上を修得していること。ただし研究科共通科目の単位を4単位を超えて修得した場合、超過単位は4単位まで情報社会デザインプログラムの選択科目の単位に算入できる。また指導教員の許可を得て、他大学院、他研究科、他専攻、他プログラム（「社会人再教育のための特別プログラム」を除く）、プログラム外科目群から10単位まで情報社会デザインプログラムの選択科目の単位に算入できる。</p> <p>【社会人再教育のための特別プログラム】</p> <p>①必修科目12単位を修得していること。</p> <p>②コース選択科目から18単位以上を修得していること。この場合において、当該18単位には、「情報組織化論」、「情報システム設計論」、「実践マネジメント特論」、「eコマース特論」、「グローバルコミュニケーション特論」、「社会人再教育のための情報学特別講義Ⅰ」、「社会人再教育のための情報学特別講義Ⅱ」、「社会人再教育のための情報学特別講義Ⅲ」、「情報教育カリキュラム設計論」及び「情報科教育法特論」のうちから修得した6単位を含んでいなければならない。また、研究科共通科目の「システム・ネットワーク論」、「コミュニケーション論」、「情報資源総論」及び「情報社会セキュリティ論」の単位を修得した場合、コース選択科目の単位に算入できる。さらに上記4科目以外の研究科共通科目の単位を修得した場合、4単位までコース選択科目の単位に算入できる。また指導教員の許可を得て、他大学院、他研究科、他専攻から10単位までコース選択科目の単位に算入できる。</p>		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	15週
		1時限の授業時間	90分

教育課程等の概要																
(総合科学技術研究科理学専攻)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
研究科 共通科目	現代経営論	1・2後		2		○									兼2 兼1	共同
	希少資源戦略論	1・2前		2		○										
	先端機器分析科学Ⅰ	1・2前		2		○			1							
	先端機器分析科学Ⅱ	1・2後		2		○			6	2					兼5 兼7	オムニバス オムニバス
	フロンティア科学特論Ⅰ	1・2前		1		○										
	フロンティア科学特論Ⅱ	1・2後		1		○			1							
	科学技術者倫理	1前		2		○			1						兼6	オムニバス
	現代科学の最前線Ⅰ	1・2前		1		○			3	4						オムニバス
	現代科学の最前線Ⅱ	1・2後		1		○			4	2	1					オムニバス
	科学技術政策特論	1・2前		2		○									兼1	
	マーケティング論	1・2後		2		○									兼1	
	情報システム論	1・2前		2		○									兼2	オムニバス
	情報セキュリティマネジメント論	1・2後		2		○									兼1	
	応用数学概論	1・2前		2		○									兼1	
	応用数学特論	1・2前		2		○									兼1	
	量子工学特論	1・2前		2		○									兼1	
	工学基礎化学特論Ⅰ	1・2前		2		○									兼1	
	工学基礎化学特論Ⅱ	1・2後		2		○									兼1	
	応用生命科学概論	1・2前		2		○									兼1	
	応用プログラミング	1・2前		2			○								兼1	集中
	システム・ネットワーク論	1・2前		2		○									兼4	オムニバス
	コミュニケーション論	1・2後		2		○									兼4	オムニバス
	情報資源総論	1・2前		2		○									兼5	オムニバス
	情報社会セキュリティ論	1・2後		2		○									兼2	オムニバス
	先端フィールド科学特別演習	1・2通		2		○									兼1	
	統合オミックス特論Ⅰ	1・2前		2		○									兼2	オムニバス
	統合オミックス特論Ⅱ	1・2後		2		○				1					兼2	オムニバス
	分子構造解析特論	1・2前		2		○				1	1				兼1	オムニバス
	分子構造解析演習	1・2前		1			○			1	1					オムニバス
	次世代シーケンサーWET演習	1・2後		1			○								兼1	
	次世代シーケンサーDRY解析演習	1・2前		1			○			1						集中
	災害情報学特論	1・2前		2		○									兼1	
	津波工学特論	1・2後		2		○									兼1	集中
	リスクマネジメント概論	1・2前		2		○									兼1	
	地震災害論	1・2前		1											兼1	集中
	火山災害論	1・2後		1											兼1	集中
	Science and Technology in Japan	1・2前		2		○									兼1	
	Shizuoka Enterprises in South and Southeast Asia	1・2後		2		○									兼1	
	Professional Presentations in English	1・2後		1				○							兼2	共同
	English Thesis Writing	1・2後		1				○							兼2	共同
	大学院キャリアデザイン	1・2前		1		○									兼4	集中 共同
	大学院インターンシップ	1・2通		1					○						兼1	集中
	スクールインターンシップ	1通		4					○						兼1	
	海外大学交流研修	1・2通		2					○						兼1	
	創造科学技術入門セミナーⅡ	1・2前		1		○				3	2				兼2	オムニバス
	創造科学技術先端機器分析演習Ⅱ	2後		1			○			1						
小計(46科目)		—	0	79	0	—			15	10	1	0	0	兼65		

コース必修科目	数学コース	数学特別研究	1~2通	12				○		4	4	3				共同
		小計 (1科目)	—	12	0	0		—		4	4	3	0	0	0	
	物理学コース	物理学特別演習 I	1前	2				○		6	6		1			共同
		物理学特別演習 II	1後	2				○		6	6		1			共同
		物理学特別研究	1~2通	12					○	6	6		1			共同
		小計 (3科目)	—	16	0	0		—		6	6	0	1	0	0	
	化学コース	化学特別演習 I	1前	2				○		6	6	2				共同
		化学特別演習 II	1後	2				○		6	6	2				共同
		化学特別研究	1~2通	12					○	6	6	2				共同
		小計 (3科目)	—	16	0	0		—		6	6	2	0	0	0	
	生物科学コース	生物科学特別演習 I	1通	2				○			3	1	2			共同
		生物科学特別演習 II	2通	2				○			3	1	2			共同
		生物科学特別研究	1~2通	12					○	7	5	1	2			共同
		小計 (3科目)	—	16	0	0		—		7	5	1	2	0	0	
	地球科学コース	地球科学特別演習 I	1前	1				○		5	7	1	1			共同
		地球科学特別演習 II	1後	1				○		5	7	1	1			共同
		地球科学特別演習 III	2前	1				○		5	7	1	1			共同
		地球科学特別演習 IV	2後	1				○		5	7	1	1			共同
		地球科学特別研究	1~2通	12					○	5	7	1	1			共同
	小計 (5科目)	—	16	0	0		—		5	7	1	1	0	0		
コース選択科目	数学コース	代数学特論	1・2前	2			○		1							
		代数系特論	1・2後	2			○		1							
		幾何学特論	1・2前	2			○			1						
		幾何系特論	1・2後	2			○			1						
		解析学特論	1・2後	2			○		1							
		解析系特論	1・2前	2			○		1							
		数理論理学特論	1・2前	2			○		1							
		数学基礎論特論	1・2後	2			○			1						
		確率論特論	1・2後	2			○				1					
		複素解析学特論	1・2前	2			○				1					兼1
		位相数学特論	1・2後	2			○				1					
		組合せ数学特論	1・2後	2			○			1						
		公理的集合論特論	1・2前	2			○			1						
		数学特別講義 I	1・2前	2			○								兼1	集中・隔年
		数学特別講義 II	1・2前	2			○								兼1	集中・隔年
		数学特別講究 I	1前	2				○		1	1					共同
		数学特別講究 II	1後	2				○		2	1					共同
		数学特別講究 III	2前	2				○		4	4	3				共同
		数学特別講究 IV	2後	2				○		4	4	3				共同
	小計 (19科目)	—	0	38	0		—		5	5	3	0	0	兼3		

物理学コース	数理解物理学特論	1・2後		1		○			1								
	多体系数理特論	1・2前		2		○			1								
	量子光学特論	1・2後		2		○				1							
	量子力学特論	1・2後		2		○				1							
	素粒子物理学特論	1・2前		2		○			1								
	物性物理学特論	1・2前		2		○				1							
	実験物理学特論	1・2前		1		○				1							
	生物物理学特論	1・2後		2		○			1								
	宇宙物理学特論	1・2後		1		○				1							
	物理学特別講義Ⅰ	1・2前		1		○									兼1	集中・隔年	
	物理学特別講義Ⅱ	1・2前		1		○									兼1	集中・隔年	
	物理学特別講義Ⅲ	1・2前		1		○									兼1	集中・隔年	
	物理学特別講義Ⅳ	1・2後		1		○									兼1	集中・隔年	
	物理学特別演習Ⅲ	2前		2			○		6	6		1				共同	
	物理学特別演習Ⅳ	2後		2			○		6	6		1				共同	
	理学同窓会寄付講義	1前		1			○								兼6	集中・オムニバス	
小計（16科目）	—	0	24	0		—		6	7	0	1	0		兼10			
化学コース	構造物理化学特論	1・2前		2		○			1								
	光物理化学特論	1・2前		2		○				1							
	分子動力学特論	1・2後		2		○				1							
	遺伝生化学特論	1・2前		2		○			1								
	核酸構造化学特論	1・2前		2		○				1							
	無機化学特論	1・2前		2		○			1								
	無機固体化学特論	1・2後		2		○				1							
	無機量子化学特論	1・2前		2		○			1								
	有機化学特論	1・2後		2		○			1								
	有機金属化学特論	1・2後		2		○				1							
	有機超分子化学特論	1・2前		2		○			1								
	放射線測定・解析特論	1前		1		○				1							
	放射能利用分析特論	1前		1		○				2							オムニバス
	放射科学特別演習	1前		1		○				2		1					オムニバス
	先進放射化学特論	1・2後		2		○				1							
	先進エネルギー化学特論	1・2後		2		○						1					
	放射線管理学特別実習	1・2前・後		1		○				2		1					オムニバス
	化学特別講義Ⅰ	1・2前		1		○									兼1	集中・隔年	
	化学特別講義Ⅱ	1・2前		1		○									兼1	集中・隔年	
	化学特別講義Ⅲ	1・2前		1		○									兼1	集中・隔年	
	化学特別講義Ⅳ	1・2前		1		○									兼1	集中・隔年	
	化学特別講義Ⅴ	1・2後		1		○									兼1	集中・隔年	
化学特別講義Ⅵ	1・2後		1		○									兼1	集中・隔年		
化学特別演習Ⅲ	2前		1			○		6	6	2					共同		
化学特別演習Ⅳ	2後		1			○		6	6	2					共同		
理学同窓会寄付講義	1前		1			○								兼1	集中		
小計（26科目）	—	0	39	0		—		6	9	3	0	0		兼7			
生物科学コース	細胞生物学特論	1・2後		1		○			1								
	分子生物学特論	1・2前		1		○				1							
	内分泌学特論	1・2後		1		○			1								
	動物生理学特論	1・2後		1		○				1							
	神経科学特論	1・2後		1		○			1								
	微生物学特論	1・2前		1		○			1								
	植物発生学特論	1・2前		1		○				1							
	植物生理学特論	1・2前		1		○			1								
	分子発生学特論	1・2後		1		○			1								
	植物分類学特論	1・2後		1		○				1							
	バイオ知財学特論	1・2後		1		○				1							
	組織学特論	1・2後		1		○				1							
	比較生物学特論	1・2前		1		○				1							
	生物科学特別講義Ⅰ	1・2前		1		○									兼1	集中・隔年	

コース 選択科目	生物科学コース	生物科学特別講義Ⅱ	1・2後		1		○								兼1	集中・隔年
		生物科学特別講義Ⅲ	1・2前		1		○								兼1	集中・隔年
		生物科学特別講義Ⅳ	1・2前		1		○								兼1	集中・隔年
		生物科学特別論文演習Ⅰ	1通		1			○		6	5	1	2			共同
		生物科学特別論文演習Ⅱ	2通		1			○		6	5	1	2			共同
		理学同窓会寄付講義	1前		1		○								兼1	
		小計(20科目)	—		0	20	0	—		6	7	1	2	0	兼5	
	地球科学コース	進化古生物学特論	1・2前		2		○			1						
		多様性生物学特論	1・2後		2		○			1						
		沈み込み帯流体論	1・2前		2		○			1						
		岩石鉱物物理学特論	1・2後		2		○				1					
		岩石変形学特論	1・2前		2		○				1					
		第四紀学特論	1・2後		2		○			1						
		海洋学特論	1・2前		1		○				1					
		古動物学特論	1・2後		2		○				1					
		地球微生物学特論	1・2後		2		○			1						
		地震学特論	1・2後		2		○				1					
		地球連続体力学特論	1・2前		2		○				1					
		マグマ学特論	1・2後		2		○				1					
		Agent-based Modeling	1・2後		2		○				1					
	地球科学特別講義Ⅰ	1・2後		1		○								兼1	集中・隔年	
	地球科学特別講義Ⅱ	1・2前		1		○								兼1	集中・隔年	
	地球科学特別演習Ⅴ	1・2通		1			○		5	7	1	1			共同	
	地球科学特別演習Ⅵ	2通		1			○		5	7	1	1			共同	
	理学同窓会寄付講義	1前		1		○								兼1	集中	
	小計(18科目)	—		0	30	0	—		5	8	1	1	0	兼3		
合計(160科目)			—	16	230	0	—		28	35	8	4	0	兼90		
学位又は称号		修士(理学)			学位又は学科の分野			理学関係								
卒業要件及び履修方法								授業期間等								
<p>修士課程に2年以上在学し、所定の単位を30単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格すること。ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げた者については、1年以上在学すれば足りるものとする。</p> <p>なお、コースごとの所定の単位の内訳は以下のとおりである。</p> <p>数学コース：コース必修科目12単位、研究科共通科目から2単位以上、コース選択科目から16単位以上を修得すること。</p> <p>物理学コース：コース必修科目16単位、研究科共通科目から4単位以上、コース選択科目から10単位以上を修得すること。</p> <p>化学コース：コース必修科目16単位、研究科共通科目から4単位以上、コース選択科目から10単位以上を修得すること。</p> <p>生物科学コース：コース必修科目16単位、研究科共通科目から4単位以上、コース選択科目から10単位以上を修得すること。</p> <p>地球科学コース：コース必修科目16単位、研究科共通科目から4単位以上、コース選択科目から10単位以上を修得すること。</p> <p>なお、他コース、他専攻、他研究科、他大学院で開講する科目から10単位までをコース選択科目の単位数に含めることができる。</p>								1学年の学期区分				2期				
								1学期の授業期間				15週				
								1時限の授業時間				90分				

教育課程等の概要																
(総合科学技術研究科工学専攻)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
研究科 共通科目	現代経営論	1・2後		2		○			1						兼1 共同	
	希少資源戦略論	1・2前		2		○			1							
	先端機器分析科学 I	1・2前		2		○									兼1	
	先端機器分析科学 II	1・2後		2		○									兼13 オムニバス	
	フロンティア科学特論 I	1・2前		1		○									兼7 オムニバス	
	フロンティア科学特論 II	1・2後		1		○									兼1	
	科学技術者倫理	1前		2		○									兼7 オムニバス	
	現代科学の最前線 I	1・2前		1		○									兼7 オムニバス	
	現代科学の最前線 II	1・2後		1		○									兼7 オムニバス	
	科学技術政策特論	1・2前		2		○					1					
	マーケティング論	1・2後		2		○					1					
	情報システム論	1・2前		2		○					1					兼1 オムニバス
	情報セキュリティマネジメント論	1・2後		2		○				1						
	応用数学概論	1・2前		2		○				1						
	応用数学特論	1・2前		2		○					1					
	量子工学特論	1・2前		2		○				1						
	工学基礎化学特論 I	1・2前		2		○					1					
	工学基礎化学特論 II	1・2後		2		○					1					
	応用生命科学概論	1・2前		2		○					1					
	応用プログラミング	1・2前		2			○									兼1 集中
	システム・ネットワーク論	1・2前		2		○										兼4 オムニバス
	コミュニケーション論	1・2後		2		○										兼4 オムニバス
	情報資源総論	1・2前		2		○										兼5 オムニバス
	情報社会セキュリティ論	1・2後		2		○										兼2 オムニバス
	先端フィールド科学特別演習	1・2通		2		○										兼1
	統合オミックス特論 I	1・2前		2		○										兼2 オムニバス
	統合オミックス特論 II	1・2後		2		○										兼3 オムニバス
	分子構造解析特論	1・2前		2		○										兼3 オムニバス
	分子構造解析演習	1・2前		1			○									兼2 オムニバス
	次世代シーケンサーWET演習	1・2後		1			○									兼1
	次世代シーケンサーDRY解析演習	1・2前		1			○									兼1 集中
	災害情報学特論	1・2前		2		○										兼1
	津波工学特論	1・2後		2		○										兼1 集中
	リスクマネジメント概論	1・2前		2		○					1					
	地震災害論	1・2前		1												兼1 集中
	火山災害論	1・2後		1												兼1 集中
	Science and Technology in Japan	1・2前		2		○										兼1
	Shizuoka Enterprises in South and Southeast Asia	1・2後		2		○										兼1
	Professional Presentations in English	1・2後		1			○									兼2 共同
	English Thesis Writing	1・2後		1			○									兼2 共同
	大学院キャリアデザイン	1・2前		1		○										兼4 集中 共同
	大学院インターンシップ	1・2通		1				○								兼1 集中
	スクールインターンシップ	1通		4				○								兼1
	海外大学交流研修	1・2通		2				○		1						
	創造科学技術入門セミナー II	1・2前		1		○										兼7 オムニバス
	創造科学技術先端機器分析演習 II	2後		1			○									兼1
小計 (46科目)		—	0	79	0	—			6	7	0	0	0	0	兼68	

コース必修科目	機械工学コース	機械工学セミナー第一	1通	2				○		20	20		5		兼1	共同	
		機械工学セミナー第二	2通	2				○		20	20		5		兼1	共同	
		機械工学研究第一	1通	4					○	20	20		5		兼1	共同	
		機械工学研究第二	2通	4					○	20	20		5		兼1	共同	
		小計(4科目)	—	12	0	0		—		20	20	0	5	0	兼1		
	電気電子工学コース	電気電子工学セミナー第一	1通	2				○		12	11	1	1				共同
		電気電子工学セミナー第二	2通	2				○		12	11	1	1				共同
		電気電子工学研究第一	1通	4					○	12	11	1	1				共同
		電気電子工学研究第二	2通	4					○	12	11	1	1				共同
		小計(4科目)	—	12	0	0		—		12	11	1	1	0	0		
	電子物質科学コース	電子物質科学セミナー第一	1通	2				○		19	15	1	4				共同
		電子物質科学セミナー第二	2通	2				○		19	15	1	4				共同
		電子物質科学研究第一	1通	4					○	19	15	1	4				共同
		電子物質科学研究第二	2通	4					○	19	15	1	4				共同
		小計(4科目)	—	12	0	0		—		19	15	1	4	0	0		
	化学バイオ工学コース	特別セミナーⅠ	1通	2				○		11	20	1	2				共同
		特別セミナーⅡ	2通	2				○		11	20	1	2				共同
		化学バイオ工学研究Ⅰ	1通	4					○	11	20	1	2				共同
		化学バイオ工学研究Ⅱ	2通	4					○	11	20	1	2				共同
		小計(4科目)	—	12	0	0		—		11	20	1	2	0	0		
数理システム工学コース	数理システム工学セミナー第一	1通	2				○		9	11		1				共同	
	数理システム工学セミナー第二	2通	2				○		9	11		1				共同	
	数理システム工学研究第一	1通	4					○	9	11		1				共同	
	数理システム工学研究第二	2通	4					○	9	11		1				共同	
	小計(4科目)	—	12	0	0		—		9	11	0	1	0	0			
事業開発マネジメントコース	特定課題研究Ⅰ	1通	4					○	4	4						共同	
	特定課題研究Ⅱ	2通	4					○	4	4						共同	
	特定課題研究Ⅲ	2通	4					○	4	4						共同	
	小計(3科目)	—	12	0	0		—		4	4	0	0	0	0			

コース選択科目・コア専門科目	機械工学コース	フotonics工学	1・2前		2		○									兼1			
		材料強度設計	1・2前		2		○			1	1							オムニバス	
		応用熱工学特論 I	1・2後		2		○			1									
		生産システム特論	1・2後		2		○			1	1							オムニバス	
		流体力学特論	1・2前		2		○			1	1							オムニバス	
		ロボット工学特論	1・2後		2		○					2						オムニバス	
		信号処理	1・2後		2		○					1							
		メカトロニクス特論	1・2前		2		○			1	1							オムニバス	
		宇宙工学特論	1・2前		2		○			2									オムニバス
		Advanced Photonics	1・2前		2		○			1									
		Terahertz Technology	1・2後		2		○					1							
	小計 (11科目)	—	0	22	0	—			8	8	0	0	0	0	0	0	兼1		
	電気電子工学コース	応用エレクトロニクス特論	1・2後		2		○			1									
		電機エネルギー変換工学特論	1・2前		2		○			1									
		デジタル計測工学特論	1・2前		2		○			1									
		デジタル通信システム特論	1・2前		2		○			1	1							オムニバス	
		視聴覚情報処理	1・2後		2		○			1	1							オムニバス	
		システム制御工学特論	1・2後		2		○											兼1	
	小計 (6科目)	—	0	12	0	—			5	2	0	0	0	0	0	0	兼1		
	電子物質科学コース	集積電子回路工学特論	1・2後		2		○			3									オムニバス
Advanced Solid State Physics		1・2前		2		○			2									オムニバス	
Advanced Quantum Electronics		1・2後		2		○			1	1								オムニバス	
Nanomaterials		1・2後		2		○				2								オムニバス	
Advanced Energy Chemistry		1・2前		2		○				2								オムニバス	
小計 (5科目)		—	0	10	0	—			6	4	0	0	0	0	0	0			
化学バイオ工学コース	無機化学特論	1・2後		2		○				2								オムニバス	
	物理化学特論	1・2後		2		○			2									オムニバス	
	Advanced Organic Chemistry	1・2前		2		○			1	1								オムニバス	
	Advanced Chemical Engineering	1・2後		2		○				2								オムニバス	
	ケミカルバイオロジー特論	1・2前		2		○			1	2								オムニバス	
	バイオマテリアル特論	1・2前		2		○			1	2								オムニバス	
	バイオプロセス特論	1・2前		2		○			1	3								オムニバス	
	Advanced Biochemical Engineering	1・2前		2		○			3		1							オムニバス	
	Advanced Biofunctional Molecules	1・2前		2		○				1									
小計 (9科目)	—	0	18	0	—			7	13	1	0	0	0	0	0				
数理システム工学コース	環境計画	1・2前		2		○			1										
	動的システム論	1・2前		2		○			1										
	集合・論理・位相	1・2後		2		○			1										
	分散システム論	1・2前		2		○			1										
	数理計画法	1・2前		2		○				1									
	小計 (5科目)	—	0	10	0	—			4	1	0	0	0	0	0	0			
事業開発マネジメントコース	データ分析及び演習	1・2前		2		○				1									
	財務戦略論	1・2前		2		○			1										
	ものづくり戦略論	1・2前		2		○			1										
	マーケティング入門	1・2前		2		○				1									
	小計 (4科目)	—	0	8	0	—			1	2	0	0	0	0	0	0			

学位又は称号	修士（工学）	学位又は学科の分野	工学関係
卒業要件及び履修方法		授業期間等	
<p>修士課程に2年以上在学し、所定の単位を30単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格すること。ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げた者については、1年以上在学すれば足りるものとする。</p> <p>なお、コースごとの所定の単位の内訳は以下のとおりである。</p> <p>【機械工学コース】</p> <p>①コース必修科目12単位を修得していること。 ②研究科共通科目から4単位以上を修得していること。 ③コース選択科目から14単位以上を修得していること。この場合において、当該14単位には、自コースのコア専門科目のうちから修得した4単位が含まれていなければならない。</p> <p>【電気電子工学コース】</p> <p>①コース必修科目12単位を修得していること。 ②研究科共通科目から4単位以上を修得していること。 ③コース選択科目から14単位以上を修得していること。この場合において、当該14単位には、自コースのコア専門科目のうちから修得した4単位が含まれていなければならない。</p> <p>【電子物質科学コース】</p> <p>①コース必修科目12単位を修得していること。 ②研究科共通科目から4単位以上を修得していること。 ③コース選択科目から14単位以上を修得していること。この場合において、当該14単位には、自コースのコア専門科目のうちから修得した4単位が含まれていなければならない。</p> <p>【化学バイオ工学コース】</p> <p>①コース必修科目12単位を修得していること。 ②研究科共通科目から4単位以上を修得していること。 ③コース選択科目から14単位以上を修得していること。この場合において、当該14単位には、自コースのコア専門科目のうちから修得した6単位が含まれていなければならない。</p> <p>【数理システム工学コース】</p> <p>①コース必修科目12単位を修得していること。 ②研究科共通科目から4単位以上を修得していること。 ③コース選択科目から14単位以上を修得していること。この場合において、当該14単位には、自コースのコア専門科目のうちから修得した4単位が含まれていなければならない。</p> <p>【事業開発マネジメントコース】</p> <p>①コース必修科目12単位を修得していること。 ②研究科共通科目から4単位以上を修得していること。 ③コース選択科目から14単位以上を修得していること。</p>		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	15週
		1時限の授業時間	90分

教育課程等の概要															
(総合科学技術研究科農学専攻)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
研究科 共通科目	現代経営論	1・2後		2		○									兼2 共同
	希少資源戦略論	1・2前		2		○									兼1
	先端機器分析科学Ⅰ	1・2前		2		○									兼1
	先端機器分析科学Ⅱ	1・2後		2		○			2	1					兼10 オムニバス
	フロンティア科学特論Ⅰ	1・2前		1		○				1					兼6 オムニバス
	フロンティア科学特論Ⅱ	1・2後		1		○									兼1
	科学技術者倫理	1前		2		○			3	1					兼3 オムニバス
	現代科学の最前線Ⅰ	1・2前		1		○									兼7 オムニバス
	現代科学の最前線Ⅱ	1・2後		1		○									兼7 オムニバス
	科学技術政策特論	1・2前		2		○									兼1
	マーケティング論	1・2後		2		○									兼1
	情報システム論	1・2前		2		○									兼2 オムニバス
	情報セキュリティマネジメント論	1・2後		2		○									兼1
	応用数学概論	1・2前		2		○									兼1
	応用数学特論	1・2前		2		○									兼1
	量子工学特論	1・2前		2		○									兼1
	工学基礎化学特論Ⅰ	1・2前		2		○									兼1
	工学基礎化学特論Ⅱ	1・2後		2		○									兼1
	応用生命科学概論	1・2前		2		○									兼1
	応用プログラミング	1・2前		2			○								兼1 集中
	システム・ネットワーク論	1・2前		2		○									兼4 オムニバス
	コミュニケーション論	1・2後		2		○									兼4 オムニバス
	情報資源総論	1・2前		2		○									兼5 オムニバス
	情報社会セキュリティ論	1・2後		2		○									兼2 オムニバス
	先端フィールド科学特別演習	1・2通		2		○				1					
	統合オミックス特論Ⅰ	1・2前		2		○				1					兼1 オムニバス
	統合オミックス特論Ⅱ	1・2後		2		○									兼3 オムニバス
	分子構造解析特論	1・2前		2		○									兼3 オムニバス
	分子構造解析演習	1・2前		1			○								兼2 オムニバス
	次世代シーケンサーWE T演習	1・2後		1			○			1					
	次世代シーケンサーDRY解析演習	1・2前		1			○								兼1 集中
	災害情報学特論	1・2前		2		○									兼1
	津波工学特論	1・2後		2		○									兼1 集中
	リスクマネジメント概論	1・2前		2		○									兼1
	地震災害論	1・2前		1											兼1 集中
	火山災害論	1・2後		1											兼1 集中
	Science and Technology in Japan	1・2前		2		○									兼1
	Shizuoka Enterprises in South and Southeast Asia	1・2後		2		○									兼1
	Professional Presentations in English	1・2後		1			○								兼2 共同
	English Thesis Writing	1・2後		1			○								兼2 共同
大学院キャリアデザイン	1・2前		1		○				2	1				兼1 集中	
大学院インターンシップ	1・2通		1					○		1				兼1 共同	
スクールインターンシップ	1通		4					○						兼1 集中	
海外大学交流研修	1・2通		2					○						兼1	
創造科学技術入門セミナーⅡ	1・2前		1		○									兼7 オムニバス	
創造科学技術先端機器分析演習Ⅱ	2後		1			○								兼1	
小計（46科目）		—	0	79	0	—			9	4	0	0	0	兼76	

生物資源科学コース	コース必修科目	生物資源科学特別研究	1~2通	12					○	17	18		6			共同	
		小計 (1科目)	—	12	0	0	—			17	18	0	6	0	0		
植物バイオサイエンス教育プログラム	プログラム選択必修科目	果樹園芸学特論	1・2前		1		○			1	1						
		花卉園芸学特論	1・2前		1		○			1							
		野菜園芸学特論	1・2後		1		○			2							オムニバス
		収穫後生理学特論	1・2後		1		○			1			1				オムニバス
		果樹機能開発学特論	1・2前		1		○				1						
		果樹園芸学演習	1・2後		2			○				1					
		花卉園芸学演習	1・2後		2			○			1						
		野菜園芸学演習	1・2前		2			○			1						
		収穫後生理学演習	1・2前		2			○			1						
		青果保蔵学演習	1・2前		2			○						1			
		果樹機能開発学演習	1・2前		2			○				1					
		害虫防除学特論	1・2前		1			○				1					
		応用昆虫学特論	1・2前		1			○				1					
		植物病理学特論	1・2後		1			○				1					
		農業生態学特論	1・2後		1			○			1						
		バイオインフォマティクス特論	1・2前		1			○				1					
		害虫防除学演習	1・2前		2				○				2				オムニバス
		植物病理学演習	1・2前		2				○			1					
		農業生態学演習	1・2前		2				○		1						
		バイオインフォマティクス演習	1・2前		2				○			1					
		土壌微生物学特論	1・2前		1			○				1					
		土壌微生物学演習	1・2後		2				○			1					
		静岡学連携特別講義	1・2後		1			○			1						
		生物資源科学特別講義Ⅰ	1・2通		1			○			1						
		生物資源科学特別講義Ⅱ	1・2通		1			○			1						
		生物資源科学特別演習Ⅰ	1・2通		2				○		1						
		生物資源科学特別演習Ⅱ	1・2通		1				○		1						
		小計 (27科目)	—	0	39	0	—		5	5	0	1	0	0			
プログラム選択科目	プログラム選択科目	生命環境倫理学特論	1・2前		2		○			1							
		Advanced Forest Ecology	1・2前		2		○			1							
		造林学特論	1・2後		2		○			1	1						オムニバス
		砂防工学特論	1・2前		2		○			1							
		森林生理生態学特論	1・2後		2		○				1						
		森林水文学特論	1・2後		2		○						1				
		森林生態学演習	1・2前		2			○			1						
		砂防工学演習	1・2前		2			○		1			1				オムニバス
		森林生態管理学演習	1・2前		1			○		1	1						オムニバス
		改良木材学特論	1・2前		2			○		1	1						オムニバス
		木質構造学特論	1・2前		2			○			1						
		セルロースナノファイバー科学特論	1・2前		2			○		1							
		木質生化学特論	1・2後		2			○		1	1						オムニバス
		高分子複合材料学特論	1・2後		2			○		1							
		改良木材学演習Ⅰ	1・2前		2				○	1	1						オムニバス
		住環境構造学演習Ⅰ	1・2前		2				○		1		1				オムニバス
		改良木材学演習Ⅱ	1・2前		2				○	1	1						オムニバス
		木質生化学演習Ⅰ	1・2前		2				○	1	1						オムニバス
		木質生化学演習Ⅱ	1・2前		2				○	1	1						オムニバス
		高分子複合材料学演習Ⅰ	1・2前		2				○	1			1				オムニバス
高分子複合材料学演習Ⅱ	1・2前		2				○	1			1				オムニバス		
住環境構造学演習Ⅱ	1・2前		2				○		1		1				オムニバス		
環境社会学特論	1・2後		1			○			1								
持続可能型農業科学特論	1・2後		1			○			1								

植物バイオサイエンス教育プログラム	プログラム選択科目	生態学特論	1・2後	1	○		1							
		持続可能型農業科学演習	1・2前	2		○		1	1					
		生態学演習	1・2前	2		○		1						
		環境社会学演習	1・2前	2		○			1					
		農業経営経済学特論	1・2前	1		○			1					
		住環境科学特論	1・2後	1		○			1					
		実践園芸学特論	1・2前	1		○		1						
		農業経営経済学演習	1・2前	2			○		1	1				
		生命環境倫理学演習	1・2後	2			○		1					
		バイオマス環境学演習	1・2前	2			○			1				
		実践園芸学演習	1・2前	2			○		1					
		水圏生物科学特論	1・2後	1		○		1						
		水圏生物科学演習	1・2通	2			○		1					
		Advanced Biotechnology and Bioengineering	1・2後	2		○		2						オムニバス
		Advanced Plant Chemistry	1・2前	2		○		2	1					オムニバス
		Advanced Biological Chemistry	1・2前	2		○			1					オムニバス
		Advanced Chemistry for Biorefinery	1・2前	2		○		2	2					オムニバス
		Advanced Food and Nutritional Chemistry	1・2後	2		○		1	1					オムニバス
		Advanced Biomaterial Process	1・2前	2		○							兼1	
		Advanced Plant Production I	1・2後	2		○		3						オムニバス
		Advanced Plant Production II	1・2前	2		○		2	1		1		兼1	オムニバス
Advanced Environmental Conservation	1・2後	2		○		2	2					オムニバス		
Advanced Plant Protection	1・2後	2		○			2					オムニバス		
Environmental Remote Sensing	1・2前	2		○		1						オムニバス		
Field Lecture in Temperate Forest Ecosystems around Mt. Fuji	1・2後	2		○		1	2		1			オムニバス		
Advanced Agricultural Society and Science	1・2前	1		○			2		1			オムニバス		
小計 (50科目)	—	0	91	0	—	22	19	0	6	0	兼1			
木質科学教育プログラム	プログラム選択必修科目	改良木材学特論	1・2前	2		○		1	1					オムニバス
		改良木材学演習 I	1・2前	2			○		1	1				オムニバス
		改良木材学演習 II	1・2前	2			○		1	1				オムニバス
		木質構造学特論	1・2前	2		○			1					オムニバス
		住環境構造学演習 I	1・2前	2			○		1		1			オムニバス
		住環境構造学演習 II	1・2前	2			○		1		1			オムニバス
		木質生化学特論	1・2後	2		○		1	1					オムニバス
		木質生化学演習 I	1・2前	2			○		1	1				オムニバス
		木質生化学演習 II	1・2前	2			○		1	1				オムニバス
		高分子複合材料学特論	1・2後	2		○		1						オムニバス
		高分子複合材料学演習 I	1・2前	2			○		1		1			オムニバス
		高分子複合材料学演習 II	1・2前	2			○		1		1			オムニバス
		小計 (12科目)	—	0	24	0	—	3	3	0	2	0	0	
プログラム選択科目	プログラム選択科目	果樹園芸学特論	1・2前	1		○			1					
		花卉園芸学特論	1・2前	1		○		1						
		野菜園芸学特論	1・2後	1		○		2						オムニバス
		収穫後生理学特論	1・2後	1		○		1			1			オムニバス
		果樹機能開発学特論	1・2前	1		○			1					
		果樹園芸学演習	1・2後	2			○		1					
		花卉園芸学演習	1・2後	2			○		1					
		野菜園芸学演習	1・2前	2			○		1					
		収穫後生理学演習	1・2前	2			○		1					
		青果保蔵学演習	1・2前	2			○				1			
		果樹機能開発学演習	1・2前	2			○			1				
		害虫防除学特論	1・2前	1		○			1					
		応用昆虫学特論	1・2前	1		○			1					

プログラム選択必修科目	Advanced Forest Ecology	1・2前		2		○			1													
	造林学特論	1・2後		2		○			1	1									オムニバス			
	砂防工学特論	1・2前		2		○			1													
	森林生理生態学特論	1・2後		2		○					1											
	森林水文学特論	1・2後		2		○						1										
	森林生態学演習	1・2前		2			○				1											
	砂防工学演習	1・2前		2			○		1			1							オムニバス			
	森林生態管理学演習	1・2前		1			○		1	1										オムニバス		
	環境社会学特論	1・2後		1		○					1											
	持続可能型農業科学特論	1・2後		1		○						1										
	生態学特論	1・2後		1		○			1													
	持続可能型農業科学演習	1・2前		2			○				1											
	生態学演習	1・2前		2			○		1													
	環境社会学演習	1・2前		2			○					1										
	住環境科学特論	1・2後		1		○						1										
	バイオマス環境学演習	1・2前		2			○					1										
	小計(16科目)	—	0	27	0	—			4	5	0	2	0	0								
	地域生態環境科学教育プログラム	プログラム選択科目	果樹園芸学特論	1・2前	1		○															
			花卉園芸学特論	1・2前	1		○			1												
			野菜園芸学特論	1・2後	1		○			2												オムニバス
収穫後生理学特論			1・2後	1		○			1				1									オムニバス
果樹機能開発学特論			1・2前	1		○						1										
果樹園芸学演習			1・2後	2			○					1										
花卉園芸学演習			1・2後	2			○		1													
野菜園芸学演習			1・2前	2			○		1													
収穫後生理学演習			1・2前	2			○		1													
青果保蔵学演習			1・2前	2			○						1									
果樹機能開発学演習			1・2前	2			○					1										
害虫防除学特論			1・2前	1			○					1										
応用昆虫学特論			1・2前	1			○					1										
植物病理学特論			1・2後	1			○					1										
農業生態学特論			1・2後	1			○			1												
バイオインフォマティクス特論			1・2前	1			○					1										
害虫防除学演習			1・2前	2				○				2										オムニバス
植物病理学演習			1・2前	2				○				1										
農業生態学演習			1・2前	2				○		1												
バイオインフォマティクス演習			1・2前	2				○				1										
土壌微生物学特論			1・2前	1			○					1										
土壌微生物学演習			1・2後	2				○				1										
生命環境倫理学特論			1・2前	2			○			1												
改良木材学特論			1・2前	2			○			1	1											オムニバス
木質構造学特論			1・2前	2			○				1											
セルロースナノファイバー科学特論			1・2前	2			○			1												
木質生化学特論			1・2後	2			○			1	1											オムニバス
高分子複合材料学特論			1・2後	2			○			1												
改良木材学演習 I			1・2前	2				○		1	1											オムニバス
住環境構造学演習 I			1・2前	2				○				1			1							オムニバス
改良木材学演習 II			1・2前	2				○		1	1											オムニバス
木質生化学演習 I			1・2前	2				○		1	1											オムニバス
木質生化学演習 II			1・2前	2				○		1	1											オムニバス
高分子複合材料学演習 I			1・2前	2				○		1					1							オムニバス
高分子複合材料学演習 II	1・2前	2				○		1					1							オムニバス		
住環境構造学演習 II	1・2前	2				○				1			1							オムニバス		
農業経営経済学特論	1・2前	1			○					1												
実践園芸学特論	1・2前	1			○			1														
農業経営経済学演習	1・2前	2				○				1												
生命環境倫理学演習	1・2後	2				○		1														
実践園芸学演習	1・2前	2				○		1														
水圏生物学特論	1・2後	1			○			1														
水圏生物学演習	1・2通	2				○		1														

地域生態環境科学教育プログラム	プログラム選択科目	静岡学連携特別講義	1・2後	1	○		1										
		生物資源科学特別講義 I	1・2通	1	○		1										
		生物資源科学特別講義 II	1・2通	1	○		1										
		生物資源科学特別演習 I	1・2通	2		○	1										
		生物資源科学特別演習 II	1・2通	1		○	1										
		Advanced Biotechnology and Bioengineering	1・2後	2		○	2									オムニバス	
		Advanced Plant Chemistry	1・2前	2		○	2	1								オムニバス	
		Advanced Biological Chemistry	1・2前	2		○		1									
		Advanced Chemistry for Biorefinery	1・2前	2		○	2	2								オムニバス	
		Advanced Food and Nutritional Chemistry	1・2後	2		○	1	1								オムニバス	
		Advanced Biomaterial Process	1・2前	2		○										兼1	
		Advanced Plant Production I	1・2後	2		○	3									オムニバス	
		Advanced Plant Production II	1・2前	2		○	2	1			1					兼1 オムニバス	
		Advanced Environmental Conservation	1・2後	2		○	2	2								オムニバス	
		Advanced Plant Protection	1・2後	2		○		2								オムニバス	
		Environmental Remote Sensing	1・2前	2		○	1										
		Field Lecture in Temperate Forest Ecosystems around Mt. Fuji	1・2後	2		○	1	2			1					オムニバス	
		Advanced Agricultural Society and Science	1・2前	2		○		2			1					オムニバス	
		(山岳科学関連科目)	森林圏総合演習A	1・2通	1		○		1								
			森林圏総合演習B	1・2通	1		○			1							
山岳科学概論A	1・2前		1		○		1										
山岳科学概論B	1・2前		1		○		1										
山岳科学実践スキルA	1・2通		1		○		1								修了単位に含めることはできない		
山岳科学実践スキルB	1・2通		1		○		1										
小計 (67科目)	—		0	110	0	—	23	20	0	5	0	兼1					
農食コミュニケーションデザイン教育プログラム	プログラム選択必修科目		生命環境倫理学特論	1・2前	2	○		1									
			農業経営経済学特論	1・2前	1	○			1								
			実践園芸学特論	1・2前	1	○		1									
		農業経営経済学演習	1・2前	2		○		1									
		生命環境倫理学演習	1・2後	2		○	1										
		実践園芸学演習	1・2前	2		○	1										
		水圏生物科学特論	1・2後	1		○	1										
		水圏生物科学演習	1・2通	2		○	1										
		生物資源科学特別演習 I	1・2通	2		○	1										
		生物資源科学特別演習 II	1・2通	1		○	1										
		生物資源科学特別講義 I	1・2通	1		○	1										
		生物資源科学特別講義 II	1・2通	1		○	1										
	小計 (12科目)	—	0	18	0	—	4	1	0	0	0	0					
	プログラム選択科目	果樹園芸学特論	1・2前	1		○		1	1								
		花卉園芸学特論	1・2前	1		○		1									
野菜園芸学特論		1・2後	1		○		2								オムニバス		
収穫後生理学特論		1・2後	1		○		1			1					オムニバス		
果樹機能開発学特論		1・2前	1		○			1									
果樹園芸学演習		1・2後	2		○			1									
花卉園芸学演習		1・2後	2		○		1										
野菜園芸学演習		1・2前	2		○		1										
収穫後生理学演習		1・2前	2		○		1										
青果保蔵学演習	1・2前	2		○					1								
果樹機能開発学演習	1・2前	2		○			1										

	コース必修科目	応用生命科学特別研究	1~2通	12					○	12	10		3			共同	
		小計 (1科目)	—	12	0	0		—		12	10	0	3	0	0		
応用生命科学コース	コース選択科目	応用生命科学特別演習 I	1・2後		2				○		1						
		応用生命科学特別演習 II	1・2通		1				○		1						
		植物化学特論	1・2前		1			○			2	1					オムニバス
		植物化学演習 I	1・2前		2				○		2	1					オムニバス
		植物化学演習 II	1・2前		2				○		2	1					オムニバス
		生物化学特論	1・2前		1			○			1	3					オムニバス
		生物化学演習 I	1・2通		2				○		1	3					オムニバス
		生物化学演習 II	1・2通		2				○		1	3					オムニバス
		食品栄養化学特論	1・2後		1			○			2	1					オムニバス
		食品栄養化学演習 I	1・2前		2				○		2	1					オムニバス
		食品栄養化学演習 II	1・2前		2				○		2	1					オムニバス
		分子生体機能学特論	1・2前		1			○				2					オムニバス
		分子生体機能学演習 I	1・2通		2				○			2					オムニバス
		分子生体機能学演習 II	1・2通		2				○			2					オムニバス
		細胞生物学特論	1・2後		1			○			2			1			オムニバス
		細胞生物学演習 I	1・2通		2				○		1			1			オムニバス
		細胞生物学演習 II	1・2通		2				○		1			1			オムニバス
		応用微生物学特論	1・2前		1			○			1	1					オムニバス
		応用微生物学演習 I	1・2通		2				○		1	1					オムニバス
		応用微生物学演習 II	1・2通		2				○		1	1					オムニバス
		生物工学特論	1・2前		1			○			2			1			オムニバス
		生物工学演習 I	1・2後		2				○		2			1			オムニバス
		生物工学演習 II	1・2後		2				○		2			1			オムニバス
		植物機能生理学特論	1・2後		1			○			2	1		1			オムニバス
		植物機能生理学演習 I	1・2後		2				○		2	1		1			オムニバス
		植物機能生理学演習 II	1・2後		2				○		2	1		1			オムニバス
		植物分子遺伝学特論	1・2後		1			○			1					兼2	オムニバス
		植物分子遺伝学演習 I	1・2前		2				○		1						
		植物分子遺伝学演習 II	1・2前		2				○		1						
		ゲノミクス遺伝学特論	1・2後		1				○		1						
		遺伝ゲノム工学演習 I	1・2前		2				○		1						
		遺伝ゲノム工学演習 II	1・2前		2				○		1						
		環境微生物学特論	1・2後		1			○			1						
環境微生物学演習 I	1・2後		2				○		1								
環境微生物学演習 II	1・2後		2				○		1								
応用生命科学特別講義 I	1・2通		1				○			1							
応用生命科学特別講義 II	1・2通		1				○		1								
生物産業特論	1・2通		1				○		2	1					オムニバス		
Advanced Biotechnology and Bioengineering	1・2後		2				○		2						オムニバス		
Advanced Plant Chemistry	1・2前		2				○		2	1					オムニバス		
Advanced Biological Chemistry	1・2前		2				○			1							
Advanced Chemistry for Biorefinery	1・2前		2				○		2	2					オムニバス		
Advanced Food and Nutritional Chemistry	1・2後		2				○		1	1					オムニバス		
Advanced Biomaterial Process	1・2前		2				○							兼1			
Advanced Plant Production I	1・2後		2				○		3						オムニバス		
Advanced Plant Production II	1・2前		2				○		2	1		1		兼1	オムニバス		
Advanced Environmental Conservation	1・2後		2				○		2	2					オムニバス		
Advanced Plant Protection	1・2後		2				○			2					オムニバス		
Environmental Remote Sensing	1・2前		2				○		1								

応用生命科学 コース	コース 選択科目	Field Lecture in Temperate Forest Ecosystems around Mt. Fuji	1・2後		2		○			1	2		1			オムニバス	
		Advanced Agricultural Society and Science	1・2前		1		○				2		1				オムニバス
		小計 (51科目)	—	0	86	0	—			21	18	0	5	0	兼3		
合計 (169科目)		—	12	276	0	—			29	28	0	10	0	兼79			
学位又は称号		修士 (農学)			学位又は学科の分野			農学関係									
卒業要件及び履修方法									授業期間等								
<p>課程修了の認定は、研究科に2年以上在学し、30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格した者について行う。ただし、在学期間に関しては、優れた業績を挙げた者については、1年以上在学すれば足りるものとする。</p> <p>なお、コースごとの所定の単位の内訳は以下のとおりである。</p> <p>【生物資源科学コース】</p> <p>①コース必修科目「生物資源科学特別研究」(12単位)を修得していること。</p> <p>②研究科共通科目から4単位以上を修得していること。</p> <p>③プログラム選択必修科目から4単位以上を修得していること。</p> <p>④プログラム選択科目から10単位以上を修得していること。ただし、指導教員の許可を得て、4単位を超えて修得した研究科共通科目、4単位を超えて修得したプログラム選択必修科目、他コース、他専攻、他研究科、他大学院で開講する科目から10単位までを、プログラム選択科目の単位数に含めることができる。</p> <p>【応用生命科学コース】</p> <p>①コース必修科目「応用生命科学特別研究」(12単位)を修得していること。</p> <p>②研究科共通科目から4単位以上を修得していること。</p> <p>③コース選択科目から14単位以上を修得していること。ただし、指導教員の許可を得て、4単位を超えて修得した研究科共通科目、他コース、他専攻、他研究科、他大学院で開講する科目から10単位までを、コース選択科目の単位数に含めることができる。</p>									1学年の学期区分			2期					
									1学期の授業期間			15週					
									1時限の授業時間			90分					

授 業 科 目 の 概 要			
(静岡大学大学院山岳流域研究院)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
分野横断型科目	山岳流域環境学概論A	<p>山岳流域に関する学びや研究を進める上で必要となる、山岳流域の自然環境に関する基礎知識を身に付けることを目標とする。オムニバス形式での集中講義により実施する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(1 今泉文寿/5回) 流域の成り立ち及び山岳流域が有する多様な地形について、自然科学的な側面から学修する。また、山岳流域における動物、森林、気象について、教育連携協定を結ぶ筑波大学、信州大学、山梨大学の協力の下、学修する。</p> <p>(5 飯尾淳弘/1回) 森林生態系の物質循環とその植生や環境による違いについて学修し、森林が維持されるしくみを理解する。</p> <p>(7 檜本正明/1回) 山岳流域における植物生態について学び、環境の違いによる生態系の分布、環境変化に対する生態系機能の応答について学ぶ。</p> <p>(13 江草智弘/1回) 山岳流域における水循環過程、特に降水・蒸発散・地表と地中での水移動に関する理論と計測手法を学ぶ。</p>	オムニバス方式 集中
	山岳流域環境学概論B	<p>山岳流域の管理を行うために必要な基礎的知見を学ぶことを目標とする、オムニバス形式の集中講義である。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(1 今泉文寿/5回) 山岳流域における防災手法（構造物の設置やソフト対策等）及び生態系サービスの活用法について学ぶ。また、社会、環境問題、自然保護について、教育連携協定を結ぶ筑波大学、信州大学、山梨大学の協力の下、学修し、持続的な流域管理の在り方について考える。</p> <p>(5 飯尾淳弘/1回) 生物多様性と森林の生態系サービスの関係について学び、持続可能な森林管理保全方法について考える。</p> <p>(8 菌部礼/1回) 山岳流域を広域的に調査するために必要なリモートセンシング手法について、最近の知見を交えながら紹介する。</p> <p>(14 高山翔揮/1回) 山岳流域で発生する土砂災害や火山災害などの自然災害について、自然科学的な視点から紹介をする。</p>	オムニバス方式 集中
	山岳流域フィールド実習A	<p>富士山・南アルプスを含む山岳域から海洋に至る静岡県内のフィールドを活用した実習により、山岳流域に関する学修・研究を進める上で基礎となる現地調査スキルを身に付けることを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(5 飯尾淳弘/5回) 天然林における森林観察や樹種同定、生態系機能の調査を通して、持続的な森林の保全方法について学ぶ。</p> <p>(8 菌部礼/5回) 植物葉の分光反射に関する講義及び室内外での演習を行い、光学センシングによる植物機能評価技術について学ぶ。</p> <p>(14 高山翔揮/5回) 大規模崩壊地の観察や土砂移動に関する実験を通して、災害発生のメカニズムと山地保全方法について学ぶ。</p>	オムニバス方式 集中

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
分野横断型科目	山岳流域フィールド実習B	静岡周辺地域での実習により得たフィールドスキルや専門科目によって得た専門知識を定着させ、山岳流域の諸課題に対して実践的に利用可能なものにするを目的とする。静岡以外の地域で実施される連携大学（筑波大学、信州大学、山梨大学）の実習を履修し、自らが実習で実践したことについてのとりまとめ、報告を行う。飯尾淳弘が連携大学の教員と連絡をとりながら実施を行う。また実習で実践したことのとりまとめは、主指導教員による指導の下、実施する。	集中
	山岳流域コミュニケーションスキル	山岳流域に関する実践的なフィールド調査、データ整理を行い、そのうえで得られた結果を分かりやすくプレゼンテーションする能力を身に付けることを目標とする。フィールド調査やその結果得られたデータの整理、更にはプレゼンテーション技術の修得を、指導教員を中心とした集団指導体制の下、行う。その成果を、山岳科学に関する教育連携協定を結ぶ筑波大学、信州大学、山梨大学との連携によって実施する「山岳科学学術集会」において発表する。集中講義の形式をとり、全体のとりまとめを今泉文寿が行う。	集中
専門科目	人文・社会・実践系科目群	山岳流域における人と自然環境の関わりや自然保全の啓発活動について総合的に学ぶことを目標とする。 (オムニバス方式/全8回) (1 今泉文寿/1回) 自然環境の保全に関する実務者の講話を聞き、実社会における人と自然環境の関係性を考える。 (16 小南陽亮/2回) 森林の保全について教育や研修で扱う内容を実践例から学び、環境教育の指導者スキルを向上させる。 (17 小山真人/2回) 富士山と伊豆半島を題材として、火山地域特有の災害の特徴と対策の現状について学び、自然との共生の方策を考える。 (18 村越真/2回) 自然環境でのリスクとそのマネジメントの方法を学び、グループワークを通して模擬的に実践する。 (19 米谷壽代/1回) 「自然保護の基本原則」として、環境基本法と生物多様性基本法の特徴について説明をした上で、国立公園の歴史を概観し、日本の自然公園におけるさまざまな規制について、現代的な課題を紹介する。	オムニバス方式
		Field Practice in Tenryu Forests: from Plantation to Natural Laurel Forest	海外の修士学生と共に静岡県天竜地域の森林と環境、文化について学び、グローバルな視点で日本の森林について学ぶ。具体的には植生、森林生態学、森林管理、水文、地質などの野外実習と研究発表会を通して、森林に関する知識だけでなく、グローバルな広い視野と英語コミュニケーションスキルを磨く。講義は全て英語で行われる。海外からの渡航が難しいときには研究発表会を主体としたオンラインセミナーとする。 (オムニバス方式/全15回) (5 飯尾淳弘/5回) 針葉樹人工林と照葉樹林の森林観察と植生調査を通して、自然と調和した森林管理方法について学ぶ。 (8 菌部礼/5回) 森林リモートセンシングに関する講義及び室内外での演習を行い、スマート林業の基盤となる技術やデータ解析方法について学ぶ。 (14 高山翔揮/5回) 下層植生や樹木根の土砂移動抑止効果に関する講義や野外実習を行い、森林施業と土砂移動の関係について学ぶ。

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 人文・社会・実践系科目群	流域社会学特論	流域という観点から社会を見たときに、経済的關係（利水や林業など）、リスク分配（自然災害や鳥獣被害など）、生態系保全（生物だけでなく物質循環なども含む）などにおける上流から下流、あるいは海洋まで含めた観点からの現状の問題点や解決に向けた取り組みについての理論的あるいは実践的な講義を行う。	
	地域産業論	本講義では主に、産地型産業（あるいは地場産業）と呼ばれる、各地域に特化した産業について理論とケーススタディの両側面から学んでいく。とりわけ、静岡市近郊地域が日本有数の木製の家具産地として教えられているように、家具産地あるいは家具づくりにおける森林資源の保全と利用の両立に向けた地域の社会経済システムのデザインという問題意識を中心に講義を展開していく。	
	山岳流域防災学特論	土砂災害や洪水災害など、山岳流域で発生する災害を軽減するために必要な実務知識を身に付けることを目標とする。防災計画の策定や、施設（砂防堰堤、河川堤防等）の設置、ハザードマップの作成といった行政（国、地方自治体）が実施する防災事業について学ぶ。加えて、住民の避難行動や啓発活動などについて学び、社会と防災の関わりについて考える。全8回の定期講義により実施する。	
	自治体財政論	本講義は、国の財政及び自治体財政をめぐる最近の議論を中心に、基本的な文献を取り上げて考察し、改革の課題を明らかにすることを目的としている。2000年代以降「平成の大合併」、「三位一体の改革」、「地方創生」政策などが展開してきたが、それらの争点の整理を行いつつ、国際比較や地域づくりの具体的事例の検証などを通じて、今後のSDGsによる地域づくりの在り方などについて議論を深めていく。	
	政府間財政関係演習A	本講義では、財政に関する理論や思想、国と地方における財政の現状、政府間財政関係に関して、国際比較を交えながら、具体的な事例を基に解題を行う。財政の経費論においては、環境保全や防災の観点からのまちづくり・地域づくりに関する実践事例、具体的には、東日本大震災後の東北地域における復興まちづくりや熱海土石流災害後の復旧・復興まちづくりなどを取り上げる。今後の財政の在り方や分権型協働参画社会の展望についても議論を深めていく。	隔年
	政府間財政関係演習B	本講義は、公共部門における財政の在り方、国と地方の財政関係、租税の在り方などを中心に学会の争点を整理し、具体的な事例を基に、改革の方向性について議論を深めていくことを目的としている。財政の経費論においては、社会資本整備、地域福祉、環境保全型・防災型まちづくり等を、収入論においては、租税や補助金について取り上げる。具体的には、森林環境税の取り組み、森林資源の保全地域づくりの事例等を下に、実践的課題について考察する。	隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
人文・社会・実践系科目群 専門科目	環境政策と法	<p>本講義は、森林、水系（河川・海洋）、陸（農地を含む）の山岳流域圏の環境・資源の保全と持続可能な利用に関わる国際及び国内の政策・法制について学び、山岳流域圏の環境・資源の保全や利用の在り方を考えるための基礎的な知識を修得することを目的とする。</p> <p>講義では、総論として環境法の概要について概説した後、気候変動、山岳流域圏の環境・資源の保全と利用、山岳流域圏における生物多様性、土地利用の在り方と自然環境の保全、環境汚染に対する法的責任、自然エネルギーと環境など、森林、水系、陸など山岳流域圏の環境・資源に関わる具体的なテーマについて、国際法の観点―条約・国際的な政策動向―、国内法の観点―関連する国内法令・政策動向―双方から概観し、考察する。適宜ディスカッションも行いつつ、環境に関する政策と法について多角的かつ包括的に理解し、活用できるようになることを目指す。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（15 板倉美奈子・19 米谷壽代／2回）（共同） ガイダンス&イントロダクション、まとめ</p> <p>（15 板倉美奈子／7回） 総論―国際環境法の概要・基本原則、気候変動をめぐる国際法制、森林の環境・資源の保全、森林・農における生物多様性の保全、環境保全・環境汚染に対する国家の責任</p> <p>（19 米谷壽代／6回） 国内の環境法の歴史：環境法とは、環境汚染に対する法的責任、土地利用のあり方と自然環境の保全、気候変動国内の関連法令・政策動向、自然エネルギーと環境</p>	オムニバス方式・共同（一部）
	経済発展論演習 A	<p>この講義は、統計分析フリーソフトである“R”を用いて、世界の国々の経済分析を行うための基礎知識を与えるものであるため、本講義にはコンピュータを携帯する必要がある。そして、この講義を履修することで、最終的には国際経済・開発経済に関する基本的な計量分析を行うことができるようになることを目標とする。基本的な授業計画は、①統計・計量経済学の基礎（第1～3回）、②“R”の使い方（第4回）、③実際のデータを用いた基本的な計量分析の実習（第5～11回）、④開発途上国に関して各自の関心のある分野での計量分析のプレゼンテーション（第13～15回）となる。</p>	隔年
	経済発展論演習 B	<p>この授業では、経済発展というものがどのように起こるのかについて、アジア諸国でいち早く、高度経済成長を遂げ経済大国となった日本の歩みを通して考えていく。そして、この授業を履修することで、経済発展の仕組みについてだけでなく、日本経済に関する知識を獲得できるようになることを目標とする。基本的な授業計画は、大野健一著『途上国ニッポンの歩み』、三橋規宏・内田茂男・池田吉紀著『ゼミナール日本経済入門』をメインのテキストとして、これらを輪読する形式を取り、理解度確認のために、毎回授業の最後に小テストを実施する。</p>	隔年
	マーケティング戦略	<p>本科目では、マーケティング・ミックス、市場地位、製品ライフサイクル、STP（セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング）といったマーケティング戦略について、大学院修士レベルの知識を修得する。具体的には、マーケティング戦略に関する研究書又はテキストブックの輪読及び議論を通じて、マーケティング戦略について理解を深める。また、輪読及び議論を通じて学んだ理論を現実のビジネスに応用して思考する能力を身に付けるため、必要に応じてケーススタディ等を取り入れる。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 自然科学系科目群	動物生理学特論	魚類を中心に水生生物についても、恒常性の維持に関する生理的な制御機構や水中に生活するための器官の構造やその仕組みについて理解できることを目標とする。水生生物の生理機能を理解することによって、水域で繰り広げられる生物の進化と多様性について考察できることを最終的な目標とする。水生生物の生理機能を理解するためには、基礎生理学の知識が不可欠であるため、呼吸と循環、脳と感覚、遊泳運動と回遊、内分泌器官とホルモン、生殖と行動、消化器官の特徴と機能、浸透圧調節と恒常性などについて、哺乳類の生理機能と比較しながら講義を進める。自分たちの身体がどのように機能しているかを理解することによって、水域に生息する生物の生理機能をより深く学ぶことができる。それぞれの分野について、60分程度の講義を行った後、30分程度で回答する「基礎生理学から考える野外生物の生理学」という小レポートを課すという授業を展開する。	
	植物分類学特論	本講義は陸上植物の9割を占める被子植物を対象として、その分類と進化を理解する事を目標としている。近年の分子系統解析の結果から、被子植物の大系統はほぼ明らかになっている。この系統関係を基にして、様々な形態学的形質の形質進化が議論されてきている。特にその中で生殖器官の解剖学的形質は被子植物の大系統を考える上で、特に重要な形態形質であることが示唆されている。本講義ではこの生殖器官の解剖学的形質を詳細に解説する。葯や小孢子、大孢子から大配偶体、受精後の種子などの解剖学的形質を詳細に解説し、これらの形態形質の進化がどのように起こったのかを理解することを目的としている。このような進化を理解することで、被子植物の分類を深く理解することができる。	
	Advanced Forest Ecology I	本講義では森林生態系の物質循環やエネルギー循環を中心に扱う。主に森林における炭酸ガス交換と蒸散に関連した植物の機能が、異なる環境条件・スケールでどのように変化するのかを説明する。この中で、生態生理学のプロセスと放射伝達プロセスをリンクさせ、ガス交換モデルと放射伝達モデルの両方を紹介する。特に、個葉から葉群（クラスター）、樹冠、流域へのアップスケールリングのメカニズムについて重点的に解説する。さらに、典型的な温帯林生態系における様々なスケールでのガス交換モニタリングのアプローチも紹介する予定である。	集中
	Advanced Forest Ecology II	本講義はAdvanced Forest Ecology I で扱った内容を踏まえ、生態系モデルで必要とされるパラメータの直接的な測定方法及びリモートセンシングデータから推定する方法を学ぶ。異なるCO2濃度・光量・温度下での個葉レベルでのガス交換特性を測定し、そこからVcmax、Jmaxといった主要パラメータの推定方法を学ぶ。さらに、様々なリモートセンシングデータを用いた森林生物物理学的・生化学的・生理パラメータの推定方法についても紹介する。	集中 講義8時間 演習8時間
	Environmental Remote Sensing A	リモートセンシングに関する基礎的な物理・生理生態機構を理解し、様々な応用方法を学ぶ。特に本講義では、近接及び航空機や人工衛星などのプラットフォームに搭載されたセンサーによって計測した電磁波特性や距離を利用して、地表物体特性を広域かつ間接的に評価する方法や物体の3次元情報を計測する手法、反射情報を導く基本的な物理的メカニズムを紹介し、放射伝達過程の詳細を議論する。さらに、これらに関する応用例も扱う。	集中

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 自然科学系科目群	Environmental Remote Sensing B	リモートセンシングデータの解析に機械学習が幅広く活用されている。特に、物体検出、画像変換、超解像度化といった技術は目覚ましく進展しており、リモートセンシングによる農作物の株数の自動カウントや農業地帯における定常観測及び異常の早期検出といったスマート農業の実現に有効な手段として注目されている。本講義ではこういった最新技術を扱う。また、無料で深層学習を利用できるGoogle Colaboratoryを用いた課題を扱うことにより、理解の強化を図る。	集中
	森林水文学特論I	日本では森林の多くは山地源頭に位置しているため、森林流域は生活・工業・農業用水の重要な供給源となり、土砂・栄養塩などの物質の輸送を担い、下流域の生態系を支える基盤となっている。従って、山地森林流域における水循環過程を理解することは、山地の物質循環・土砂動態・生態学などの関連分野を学ぶ上で欠かすことができない。本講義では、山地森林流域の水循環過程の主要な構成要素である降雨・蒸発散・地中での水の移動・河川流出について、基礎理論・定量的な評価法を修得することを目標とする。講義は、対面・オンラインを併用して行う。	
	森林水文学特論II	山地森林流域における水循環過程を理解することは、山地の物質循環・土砂動態・生態学など関連分野を学ぶ上で欠かすことができない。本講義では、森林水文学特論Iで学ぶ水循環過程に関する基礎理論を前提として、山地森林流域における蒸発散・地中での水の移動・河川流出の数理的表現方法について理解することを目標とする。必要な数学的知識については講義中に適宜説明する。講義は、対面・オンラインを併用して行う。	
	森林生理生態学特論I	森林生理生態学とは環境と樹木の成長との関係を生理学的メカニズムから理解し、森林の育成や管理保全について考える学問である。この講義では光合成や呼吸、蒸散などを中心に樹木の生理生態学的機能の基礎を学び、森林の物質生産や動態を葉レベルのメカニズムから理解する力を身に付ける。スライドを使った座学を中心とするが、学生の知識レベルや興味に応じて実験やフィールドワークも織り交ぜる。	集中 講義8時間 演習8時間
	森林生理生態学特論II	樹木の光合成や呼吸、蒸散機能を実際に計測し、分析機器の使用法や得られたデータの分析解釈について学び、また、生理生態学的手法を用いた森林生態系の管理保全について考える。フィールドワークや室内実験を主体とする講義であり、森林生理生態学特論Iを履修していることを受講要件とする。	集中 講義4時間 演習12時間
	森林生態学演習	樹木及び森林生態系を対象とする生理生態学を基礎とし、環境変化に対する樹木の生理応答、森林生態系管理に関する研究について議論する。議論の中から注目する対象を絞り込み、実験や調査によってデータを取得し、既存研究との比較等を通じて環境変化に対する樹木及び森林生態系の応答について考える。	
	森林生態管理学演習	太平洋側と日本海側の森林生態系について、現地を見ながらその違いと成り立ちについて学ぶ。新潟大学の教員と連携して、新潟大学佐渡演習林を中心に演習を実施する。	集中
	造林学特論I	林業及び森林生態系管理に関する現状と課題について学ぶ。人工林を含む森林生態系は、木材生産にとどまらず、複数の公益的機能を有しており、多方面からの期待は大きい。一方で林業経営の衰退から管理不十分な森林の荒廃が問題ともなっている。こうした課題を解決するための取り組み等を含めて議論する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 自然科学系科目群	造林学特論II	林業及び森林生態系管理に関連する研究分野について議論する。造林学特論Iで学修した林業及び森林生態系管理における現状や課題を理解した上で、その課題解決に関する基礎的・応用的な研究について学び、造林学及び生理生態学的な観点から森林施業や森林生態系管理手法について議論する。	
	砂防工学演習	森林山地・河川環境の保全と土砂対策について、砂防学に関する調査・解析手法の演習を通して学ぶことを目標とする。森林山地、溪流・河川を対象とした地形、地質、土質、水文等の調査・実験・解析手法に関する最新の知見を学ぶとともに、学術論文を理解する能力、研究成果をとりまとめる能力についても身に付ける。 (オムニバス方式/全15回) (1 今泉文寿/8回) 砂防学に関する調査手法や学術論文を理解する能力の修得に関する演習を行う。 (14 高山翔輝/7回) 実験・解析能力や研究成果をとりまとめる能力の修得に関する演習を行う。	オムニバス方式 集中
特別研究科目	山岳流域学特別研究	山岳流域に関する過去の研究や山岳流域が有する課題を踏まえて研究計画を立案し、自らが修得した専門知識やフィールドスキルを活用して研究を実施する。得られた研究成果を基に、修士論文の作成とプレゼンテーションを行う。これらの取り組みにより、コミュニケーション能力や課題解決能力を身に付ける。研究指導は主指導教員と副指導教員が連携して行う。指導分野は以下のとおりである。 (1 今泉文寿) 山岳流域における土砂移動現象の解明と自然災害への対策 (2 王権) ハイパースペクトルリモートセンシングを活用した生態系の観測とモデリング (3 川瀬憲子) フィールドワークによる地域調査、環境政策、災害対策、防災まちづくり (4 鐵和弘) 山岳流域における経済発展の在り方 (5 飯尾淳弘) 複雑な環境要因の下で生育する樹木の生理・生態特性及び樹木の成長・競争 (6 富田涼都) フィールド調査(社会調査)に基づき環境と社会の相互作用の中で発生する課題を明らかにし、その解決を目指す (7 檜本正明) 樹木や土壌を含めた山地生態系での光合成や呼吸による物質循環 (8 菌部礼) 森林、農地、海洋を含めた流域のリモートセンシングによる監視、ドローンを活用したスマート農業 (10 徳岡徹) 山岳流域における自然植生の分布と系統分類 (12 横田宏樹) 森林資源を活用した地域産業の育成、森林業の6次産業化 (13 江草智弘) 山岳流域における水循環と物質循環の解明 (14 高山翔輝) 室内実験による災害メカニズムの解明と数値シミュレーションによる災害予測	共同

国立大学法人静岡大学 設置認可等に関わる組織の移行表

令和4年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	→	令和5年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
静岡大学					静岡大学				
					グローバル共創科学部				
					グローバル共創科学科				115 460 学部の新設（認可申請）
人文社会科学部					人文社会科学部				
社会学科	70	-	280		社会学科	60	=	240	定員変更（入学定員△10）
言語文化学科	75	-	300		言語文化学科	69	=	276	定員変更（入学定員△6）
法学科	90	3年次 2	364		法学科	84	3年次 2	340	定員変更（入学定員△6）
法学科（夜間主コース）	30	3年次 3	126		法学科（夜間主コース）	30	3年次 3	126	
経済学科	155	-	620		経済学科	142	=	568	定員変更（入学定員△13）
経済学科（夜間主コース）	30	-	120		経済学科（夜間主コース）	30	-	120	
教育学部					教育学部				
学校教育教員養成課程	300	-	1,200		学校教育教員養成課程	260	=	1,040	定員変更（入学定員△40）
情報学部					情報学部				
情報科学科	100	-	400		情報科学科	98	=	392	定員変更（入学定員△2）
行動情報学科	70	-	280		行動情報学科	69	=	276	定員変更（入学定員△1）
情報社会学科	75	-	300		情報社会学科	68	=	272	定員変更（入学定員△7）
理学部					理学部				
数学科	38	-	152		数学科	38	-	152	
物理学科	48	-	192		物理学科	48	-	192	
化学科	52	-	208		化学科	48	=	192	定員変更（入学定員△4）
生物科学科	52	-	208		生物科学科	48	=	192	定員変更（入学定員△4）
地球科学科	50	-	200		地球科学科	48	=	192	定員変更（入学定員△2）
工学部					工学部				
機械工学科	168	-	672		機械工学科	160	=	640	定員変更（入学定員△8）
電気電子工学科	110	-	440		電気電子工学科	110	-	440	
電子物質科学科	110	-	440		電子物質科学科	110	-	440	
化学バイオ工学科	112	-	448		化学バイオ工学科	110	=	440	定員変更（入学定員△2）
数理システム工学科	50	-	200		数理システム工学科	50	-	200	
農学部					農学部				
生物資源科学科	115	3年次 7	474		生物資源科学科	105	3年次 7	434	定員変更（入学定員△10）
応用生命科学科	70	3年次 3	286		応用生命科学科	70	3年次 3	286	
計	1,970	3年次15	7,910		計	1,970	3年次15	7,910	
静岡大学大学院					静岡大学大学院				
人文社会科学研究科					人文社会科学研究科				
臨床人間科学専攻（M）	11	-	22		臨床人間科学専攻（M）	11	-	22	
比較地域文化専攻（M）	10	-	20		比較地域文化専攻（M）	10	-	20	
経済専攻（M）	15	-	30		経済専攻（M）	15	-	30	
					（うち、経済専攻から山岳流域研究院の内数とする入学定員数及び収容定員数）				【1】 - 【2】 ※
教育学研究科					教育学研究科				
共同教科開発学専攻（D）	4	-	12		共同教科開発学専攻（D）	4	-	12	
教育実践高度化専攻（P）	45	-	90		教育実践高度化専攻（P）	45	-	90	
総合科学技術研究科					総合科学技術研究科				
情報学専攻（M）	60	-	120		情報学専攻（M）	60	-	120	
理学専攻（M）	70	-	140		理学専攻（M）	70	-	140	
					（うち、理学専攻から山岳流域研究院の内数とする入学定員数及び収容定員数）				【1】 - 【2】 ※
工学専攻（M）	322	-	644		工学専攻（M）	322	-	644	
農学専攻（M）	87	-	174		農学専攻（M）	87	-	174	
					（うち、農学専攻から山岳流域研究院の内数とする入学定員数及び収容定員数）				【5】 - 【10】 ※
光医工学研究科					光医工学研究科				
光医工学共同専攻（D）	5	-	15		光医工学共同専攻（D）	5	-	15	
自然科学系教育部					自然科学系教育部				
ナノビジョン工学専攻（D）	10	-	30		ナノビジョン工学専攻（D）	10	-	30	
光・ナノ物質機能専攻（D）	9	-	27		光・ナノ物質機能専攻（D）	9	-	27	
情報科学専攻（D）	11	-	33		情報科学専攻（D）	11	-	33	
環境・エネルギーシステム専攻（D）	7	-	21		環境・エネルギーシステム専攻（D）	7	-	21	
バイオサイエンス専攻（D）	8	-	24		バイオサイエンス専攻（D）	8	-	24	
					山岳流域研究院（M）				【7】 - 【14】 ※研究科等連携課程 実施基本組織の新設 （事前相談）
計	674		1402		計	674		1,402	
※山岳流域研究院（M）の入学定員及び収容定員は、人文社会科学研究科経済専攻（M）、総合科学技術研究科理学専攻（M）及び総合科学技術研究科農学専攻（M）の内数とする。									